

詩林良材後編

下





詩林良材後編

人事門
○凶子業摠論

六經ノ中ナ易春秋ハ其ノ言幽微ニシテ讀
 者其意ヲ悟リ得カタシ尚書礼記ハ其ノ言
 顯ニ事ヲ記シタレバ看ル者曉シヤスシ然レ
 トモ人心ノ感動スル難シ詩ハ事ニ觸レテ
 君臣父子朋友ノ間ニ道ニカケテ好事ア
 レバ詩ニ作リテカサ子ノ言ツラ子ニホソ
 ウラヤム若シ無道ニテ不好ノ事アレハナゲ
 キイサメテカサ子ノ言ツラ子ニ然レ直ニ
 不言シテ其イサムヘキ一此ニアレバ彼ソ云
 彼ニアレバ此ソ云ニイサメテ其詩ヲ聞テ
 自然トホムレバ其人ノ心善ニイサメ惡ニ恥
 ヌヘ人心ノ邪ヲ止ル德アリ後ノ人此詩ヲ
 ヲモテモ心ニ感シ抑揚反覆シテ己アツク
 ワス浮氣躁心モ自然ニキヘウセテ善ヲ好ミ
 惡ヲ恥ル意生ズ詩ヲ學フ者ハ先ツ人心ノ
 邪ヲ去メシ邪ヲケレバ古人ノ陳言ヲ集メテ
 我々今日ノ翰墨ニ入ルトモ神仙ノ靈丹ヲ以
 テ鐵ヲ黃人ニ変スル如クナル詩ヲ以テ
 フ意大槪如此上ノ聖人ノ學子ヲ論セハ
 天ニ繼テ極ヲ立シヨリ道統ツタリ免執



厥中トアリリシヨリ以來千古ノ學脈ノ本
源開タリ然レ氏秦ノ刑カニマブラ漢ノ
黃老ノ道ヲ好ミシサヘテ其後陳隋梁
唐ノ虛無寂滅ノ教ニ塞ガレ聖學己ニ湮没
セト入時ニ周濂溪先生洙泗ノ統ヲ持テ二
程先生其ノ道ヲ傳ヘ来タリ百ク聖學
ヲ起シタヘリ今此ノ編ハ正學ノ餘流ヲ
レハ辨論ヲ讀人モ倦怠スベケレバ此ニ略ス
大意 附師友文人

授業談經 經義ヲ談テ授ケ 太山北斗 道德

ニタトフ淵源達 道ノ深キ処ヘ 擔簦負

笈 笈ヲニナシ及テ 凌雲志 志ヲ高

君予ノ堂ヘノボ 禄在書中 君ニ事テ賜ル

ルメト思ワツ 紗囊螢火 紗囊ニ螢ルヲアツメ

ナリ 看簡編 心ヲ靜ニシテ 遊學己深 學問ニ遊

深キ 潛心篤志 學問ニ心ヲフカクシ志モ 窓下

業 書ヲ讀テツ 探聖指深 聖指ノ深意

勝万籟金 一經ヲ究知ハ万籟金ノ黃金

閑孫 孫生カ如クニクツトケテ書ヲ讀

平生願 常々ノ願ニ此 從勤苦得 學問

ツトムルヲ勤苦ト云ツ 燈火工夫 夜鏡

コラストアリ 有讀書高 世上ニ事物多ク

上ハ 讀五車書 車ニ五ツホドノ多キ

時光速 學ヲツトムレバ時光力速ニ

籍 窮モ至リテ六經ヲモ 惜三餘 學ヲツト

ヲノコサズシテツト 腹中 學業 能ツト

中ニ學業ヲ 文章有日月 文章ニニ日月

リキ 五雲筆 文章ヲホシテ五 新篇 欲

新詩ヲ見テ和、**學問事業** 學問ノツ

和、**穎ヲセント思フ** トムルソ

時習日新 日新ハ日々ニ新クナルヲ知ルニ喜ビ

聖賢 書ヲ讀ムハ聖賢ニ對シ **殘簡斷編**

獨守遺編 其道ヲ守リテ居ツ

滿腔清明 此身ニ一ハクニ清明ノ氣

字問 字ノ清明明ノ氣 **鏡意留神** 意ヲ

文人 **清新** 詩ノ清ク新ク **凌雲**

筆 詩文ノ意高キ **人爭寫** 世人カ争ヒテ

清談落筆 能談シテ能詩ハ **尤絶奇**

詩カ奇妙ナリ **文章有骨** 文章カ柔

骨カ筆力縱横 詩文ヲ自由ニ **古**

詩流 詩ノホズテ **古詩** 詞章 **藻麗**

筆端 凡雨 **凡雨** 詩文ノ連テ

高名千古 名カ高ク **千古** 動 **清凡** 詩

翰墨場 詩友 **翰墨場** 詩友

從心上出 古人ノ詩文

自有波瀾 詩文ニサシクノ

更老成 少年ノ人モ詩文ニ達ス

陽春和少 陽春ノ曲ハ和 **白雪和稀**

陽春白雪ノ歌 古今 **驪珠照眼** 詩

如三眼 **墨花香** 詩ノ書タル見テ

月間吟 凡月ヲ見テ **雪竹** 凡松

作 月間吟 **雪竹** 凡松

詩ノキヨキヲク 金玉鏗鏘 詩ヲホソクテ云ニ
トヘテ云フツ

ト云 詞藻富 詩ノオオ 有珠璣 珠璣
意ノ詞藻富 多キヲ云リ

ホソクノ逸気綾々 凡逸ノスグレタルニ云アリテ
云リ 詩ノモ綾々トカドカアリテ

千篇琢磨 詩人ノ佳作ヲ千篇モアルカ
皆是琢磨トスリニカキテ好詩

思無窮 詩人ノ詩ハ盡ル 銀河千丈 詩
コトナキヲ云リ

銀河千丈ノソノキ 凡月情 詩人ノ心常
下ル如クニ清ク高キ

ヤサシ 淡味長 世上榮花ノ中ナラス 詩人
キリ 詩ノ味ハナルホド淡味ニテ俗

塵 鏤氷生花 詩文ノ清キヲ氷ヲキリ
テ花ヲ作ルヤウナトナリ

雲霞上 殘 雲霞ノ景モ詩トナリニ
紙上ヘノボルトナリ

熟語 閑戸自爲千載計 劉后村
入山又思十年貧

此ク言ハ朝延ヲ退クハ志ニ不谷故ナリ故ニ閑
閑テ書ヲ著シ千載ノ名ヲ計ルナリ退テ

山ニ入レハ忍ビ難キナリ又十年ノ間タノ貧

窮ヲ忍ブナリ 學ヲ勤ルヲ閑戸トモ言ヒ
書ヲ著スヲ千載ノ計トモ言ヒタルソ又ノ

用マウレ可意得コトナリ

雨窓元坐 忘春去 同上
雪ノ屋清談至夜分

此ク言ハ雨中ニ元坐トシニ 坐シテ書ヲ讀
テ春ノ去ヲ忘レ雪中ニ清談シテ客ニ

對スレハ夜ハアミテモ議論ヲシテツカレヌ
雨中雪中ノ屋ノト子ヲ元坐ト云ヒ屋ノ

字ニ清談ト云 語ニ熟セリ 陸子壽
大抵有基方築室

未聞無址可成 岑
此ク言ハ學ヲ又ハ此心ノ靈明ヨリ 聖賢ニ

至ルニ故ニ心ハ聖域ニ至ルノ基ナレハ先
明ニスレ址アリニコソ成テハ高クナリタ

ル物ナリ 址無シニ火テノ成タルコトハ未聞
トナリ 基室ノ字址火テノ字照應

ス是ニクハトモニ一志ナリ 詩ニ甚々嫌
フコトハ知ハキリ

近來中酒起常遲 韋莊
卧見南山吟舊詩

此ク言ハ近來ハ幾度モ酒ニ中ラレテ起ル
常ニ遲シタニ起テ南山ヲ見テ昔ニ

作りタル詩ヲ吟シテ暮ストナリ 舊詩ヲ

吟スト云ニテ酒ニアラレ邊ク起ル新ニ
詩ヲ作ラフト云ニ意ヲ言フ甚ク婉美ナリ
ツヨクベキリ
故ト云 附文人

稽古之カ 桓榮太子ノ少傳トナル輜車
乘馬ヲツラ子テ示レテ曰人今日ノ家此所

ハ稽古ノカナリ 魏略ニ曰董遇ニ從テ學ブ者
三餘讀書 アレハ教ヘズシテ曰先讀コト

百遍セヨ其義アラハル遇 常中宵ノ鐘ノ鳴
シカキリトス 折節

テ學ブベシト或人三餘ノ上意ヲ問レバ
答テ曰冬ハ歳ノ餘夜ハ晝ノ餘 宵鐘

凡雨ハ時ノ餘ナリト云タリ
讀書 南史ニ丘仲孚少メ書ヲヨムテ

讀書 常中宵ノ鐘ノ鳴シカキリトス 折節
讀書 事文類聚ニ曰陳子昂年十七ハニ

讀ニ專ラテ數年ノ間夕經史 隨月讀
百家ノ書該覽ズト云ナシ

書 齊ノ江似少ノ公負ニ常ニ書ヲ讀テ
書 月ニ隨ニ月光斜ニテ屋上ニ升リテ

書ヲヨミ 朝讀百篇 墨子曰周公且朝ニ
書ヲ讀コト百篇ヲ

士ニニニユル 磨杵 潛確類書ニ李白少ノ
七十トアリ 書ヲ讀ドモナラズメテ

去ル道ニテ老嫗ニ逢フ杵ヲ磨ス李白
ノユヘテ問フ嫗ノ曰針ニ作ラント欲ス李白

其言ヲ感ジテ 然葉 書ニ書ヲ讀コト百篇ヲ
學問成就ス 然葉 書ニ書ヲ讀コト百篇ヲ

ハ葉ヲ然キテ 圓木敬 枕司馬光常ニ
書ヲ讀ムトナリ 圓木ヲ以テ警

枕トス少モ睡レバ枕轉ズスナハキ
起ニ書ヲ讀ムトナリ 映月望

星 拾遺記ニ任末年十四或ハ林木ノ下ニ茅
ヲアミテ庵トナシ荆ヲ削リテ筆トシ

夜ハ月ニ映ジ星ヲ望テ時ケレバ 不窺
書ヲ然シテツツトム

家園 後漢書ニ桓榮長ニ安ニアリテ學シ
ツトム十五年家園ヲウガツストナリ

遊市閱書 後漢書ニ王玄博覽シ好ム
家貧メ書ナシ洛陽ノ市ニ

遊ニ賣ル書ノ書ヲ閱ル 惜寸陰 潛確
一タビ見テ止メズトナリ

二晉陶侃カ曰太禹ハ聖人ナリ寸陰ヲオ
シムトアリ 吾輩ニ分陰ヲオシムトアリ

師友 傳道解惑 韓愈師說ニ師ハ
道ヲ傳ヘ業ヲ授ケ

道ヲ傳ヘ業ヲ授ケ

道ヲ傳ヘ業ヲ授ケ

道ヲ傳ヘ業ヲ授ケ

道ヲ傳ヘ業ヲ授ケ

道ヲ傳ヘ業ヲ授ケ

道ヲ傳ヘ業ヲ授ケ

惑ヲ解ク所 德無常師 書經ニ德ニ常
以ナリトアリ 師ノ師ナシ善ヲ
主トシテ師 模範 揚子ノ師ハ人ノ模範
トナスト云リ 模範 模範ニイカクナリト云
テ作ルヲ 模ト云 邱 邱 莊子ニ邱人聖
ウスキノ 蠅ノ羽ノ如シ匠石ヲシテケツ
シム匠石聖シケツツクシテ鼻傷ヒズ
トアリ 聖ハ白キ泥ノノ 匠石ハ匠
ノ紅車ナリ 今詩作ノ 漆削ヲ人ニ請
冀ハ邱介邱削 坐春風中 語録
ナドハ此故ト又ナリ 坐春風中 語録
光庭汝州ニ明道先生ニ三月一
ホド從テ學ベリ 歸リテ人ニ語リテ曰春風
ノ中ニ在リテ坐テ 舌耕 漢ノ賈逵經
ルコト一月トアリ 舌耕 漢ノ賈逵經
者千里ヲ遠シトセズ粟ヲ贈リテ倉盈
タリ或人ノ曰達ハ力耕ニアラズナキ舌耕
ナリト 青出於藍 荀子ニ青ハ藍ヨリ出テ
云ヘリ 青出於藍 藍ヨリモ青ク氷ハ水
ヨリ出テ水ヨリモ寒シトアリ 言ハ門
人トテモ師ニモスベキト云フ故夏ニ用ユ
一字師 潛確類書ニ張垂崖溧陽縣牧
タリ時ニ絶アリテ曰獨恨太平

無一事江南 閔殺光尚書 蕭蕭楚才ト云
人アリ 恨ノ字ヲ改メテ 幸ノ字ニ作テ
曰公ノ功高ク位重シ小人ノ子タムトキナリ
天下一統ノ時ニ公太平ノ恨ハ何ニヤト云
シナリ 公曰蕭蕭楚ハ 人師難追 漢記
コトニ一字ノ師ナリ 人師難追 漢記
子魏照 郭泰ニ事ニ 洒掃ス泰カ曰何ソ
義ヲ精シ書ヲ講セザル照曰經ノ師ハ
得ヤスシ人ノ師ハ難遭 素絲ノ質ヲ
以テ朱ト藍トニ近ツキ 漆ニト欲スト
文人 刻燭賦詩 梁ノ王僧孺傳ニ齊
アツクテ燭ヲ刻テ詩ヲ賦セシム 四韻ニハ
一寸ノ刻ム蕭蕭文 琰カ曰一寸ノ燭ヲ燒テ
四韻ノ詩ヲ作ル何ノ難キ事カアラントテ
江洪等ト銅鉢ヲ叩テ 鄉音キノ絶ヌ中
ニ韻ヲ定テ詩ヲ作リシト云 流風回雪
皆好詩ナリトアリ 流風回雪
鐘嶸詩評ニ沈雲ガ詩ハ宛轉
清使ニ流風回雪ノ如トアリ 氷柱雪
車 唐ノ劉文ヨクノ歌詩ヲ作ル氷柱雪
車ノ詩ヲ作リテ人ニ繪スルアリ
得江山助 張說岳州ニ請セラレテ詩ヲ
作ルニ云ク 樓院ナリ人江山

ノ助ケテ 灞橋凡雪 或人鄭祭二問テ
得タリト云 日近詩アリヤ答曰
詩思ハ灞橋ノ凡雪ノ中野子ノエニアリ
何ニリノ此處ニアラニマ下云フ

雞林金書 唐ノ元和中ニ雞林ノ賈
人白學士ノ詩ヲアカヒテ

云吾カ本國ノ宰相白學士ノ詩ヲ好
ミテ一巻編シ一金ニ易ルナリ若偽筆
アリ能ハルト云ヘリ 字挾凡霜 世説
己上出 潛確類書 南王鴻烈解二十卷
編ヲ作ル淮南子ト號

又自云字中凡霜ノ氣ヲ挾ムト云ヘリ
楊子雲以爲一出入 良人玉美玉 張説
字百金ニ盪ルト云ヘリ

ト近世ノ人文章ヲ論ジテ曰李嶠崔融
薛稷宋之問ハ良人玉美玉ノ如シトアリ

文如貫虹 西京雜記ニ黃叔度弟子無
閻生李玄カヨリ淮南王書ヲ

讀ムニ壁文ハ 篇連月露 隋李諤上
貫虹ノ如シトアリ 書ニ連篇

累牘月露ノ形ニ出ス案ニ積 數金心 山堂
箱ニ盈テ盡シ是レ凡雲ノ形ナリ 肆考

唐尹知章少シテ字ヲ好ム夢ニ人ニ巨キル
數金ヲ持テ其ノ心ヲ破ルトミテノドロキサム

此ヨリ志思開徹ス 浣腸 同上五代周
偏ニ六經ニ明ナリトアリ 王仁裕少シテ

不羈ナリ嘗テ夢ニ割腸胃ヲ西江ノ水ヲ
引テ浣ト見ル此ヨリ 文思日ニ進ム詩ヲ

作ル一万余首集百 積玉 抱朴子ニ陸
卷アリ西江集ト號ス 機カ文ハ玄

圃ノ積玉ノ如シト夜光 鄧林枯枝 同上王
ニアラズト云フサレシ 克漢

興テヨリ以來克ガ比ヒアラズト云フニ小疵
アリトモ鄧林ノ枯枝滄海ノ流サリノ如シ

ソレリヤス 夢貴墨 酉陽雜俎ニ唐ノ王
カフズ 勃夢ニ人ガ墨ヲ袖

ニ盈ルホド多ク遺リケルト 夢筆生花
見テ此ヨリ文章日ニ進ミタリ

天書遺事李白少カリトキ筆頭ニ花
ヲ生ズルト夢ミタリ此ヨリ天才瞻遠ニテ

名天下ニ聞ヘタリ 〇一〇一〇

送劉戶曹 學如元豈方成辭入似相如反類俳獨
立孔門無一事紙輸顔子得心成同

此詩元豈ハ杜預ナリ博學ニシテ春秋左傳
集解ヲ作ル嘗テ武帝ニ對テ臣ニ左傳
ノ上辯アリト云タリ癖ハ左氏ヲ好ムナリ

相如ハ司馬相如ナリ文人ニシテ賦ヲ作り
君ヲ諫メ諷シタリサレドモ文ノ英華バカ
リニテ百ノ中ニツガリ君ヲ諷シ意ヲ
ヒヨリ俳優ノ類ト評シタリ俳優戲
言ヲ得タク者ヲ云ソ相如リ文モ戲
言ナリト楊雄モソシリタワニノク言ハ
ツ学ハ元氣也ホドノ博ツ子ニテモ上癡トナレハ
一ツノ病ニテ實ニ学ニアラズ夫ハ司馬相如
ホドエ作リタリトモ俳ニ類シテ無用ノ文
ナリ三四ノクハ顔回ハ獨リ孔門ニ立テ
一事ノ名ヲ得タリトモナレバ千載ノ
下ニ至ルニゾ亞聖ト推タツトフソ然レハ
杜預ガ字相如ガ文モ顔子ノ心齋ヲ
得タリトハ皆ニケタリト云意ソ

觀書有感

朱文公

半畝か塘一鑑開、天光雲影共徘徊、
問渠那得清如許、為有源頭活水來、
一ニノク言ハ半畝バカリノ方塘ニ鑑ヲ開
タル如ク清キ水アルソ其水清潔ナレバ
天光モ雲影モ共ニカバミノ中ニ影カ徘徊
洞シニニミユルナリ三四ノクハ源頭何
トテ此水ハ如許ニ清浄ナルゾト問ヘ答
テ云ハ源頭ニ清浄ナル活水ガアリテ已
クナク來ル故ナリト云ソ一ニノクハ心ノ

明ニシテ事物ノ理ヲフクミタルヲ云ソ三
四ノクハ本心ノ靜ニ定リテケガシク天理
流行ノヤムフナキハ源頭ノ活水ノアル
ニタトヘタルナリ

贈賈島

己下文人

韓文公

孟郊死葬北邙山、月明風雲頓覺閒、
天地文章聲斷絕、故生賈島在人間、
一ニノク言ハ孟郊ハ一世ノ詩人ナリシカ己ニ
死去テ北邙山ニ葬リシソ其ヨリ日月風
雲モ誰シカ咏ズル人ナクテ閑ニアルソ三四
ノクハ天地ノ文章ノ聲ハ此孟郊ニア
リシニ人ヲ死去テ聲斷絶シタルニヨリ賈
島ヲ生シテ人間ニ在シメテ文章ノ聲
ヲ續ト云意ソ

贈歐陽子

蘇軾

君家文律冠西京、旋築詩壇按酒兵、
袖手莫欺眞將種、致師須得老門生、
一ニノクハ歐公ノ文章卓詩律西京ニ并
ビナレバ冠タリト云ソ然レハマ詩ノ壇
ヲ築キ酒カヲ按シ兵トシテ文陣ノ一戰
ヲセント思ト見ヘタリ三四然レバ袖手
眞ノ將種ヲ欺キテ負軍シタミウナト
將種トハ大將ノ家ニ生シタル人ノ父ノ業ヲ
續テ居ル人ヲ云ソ四ノクハ若シ戰アラズ蘇

軾ナドノヤウナル歐公ノ門ニ居ル老門生ヲ
求メタニトナリ

贈項斯

楊憑

幾度見詩詩總好及觀標格過于詩
平生不解藏人善到處相逢說項斯
二三ノク言ハ幾度カ君カ詩ヲ見ルニ詩
總ニ好詩ナリ今相見ニテ凡標韻格
ヲ見ルニ及ニテ詩ヨリモ過キテ好キ人
ナリ三四ノク好人品ト思ハテ進メ度思
ソ平生人ノ善ヲ藏ニテ置クソフ不
解ナラ到處ニ項斯ト云者アリ詩
ヲ能シテ人品高尚邁人ナリト人ニ逢
フニハ必ス君カフソ云ソトナリ

○交友摠論

語ニ曰故舊無大故則不棄也又曰久要不
忘平生之志トアリハ朋友ノ義ハ親シク睦
カルベシ其情ハ兄弟ニ似タリ杜甫カ李白
ヲ憶ヒテ詩ニモ渭北春天樹江東日暮
雲トテ樹雲ニ感テ興シテ何時カ一樽
酒重與細論ト大ト慕ヒテ情甚厚シ羅
韞カ途中ヨリ友生ハ寄タレ詩ニモ相見
或因中夜夢寄來多是隔年書トアリ
其意甚タカナレムト交友ノ詩ハ厚情
誠實ハ本トシテ作ルニ送別ノ詩モ

親シキ交リノ中ナレバ情ニスル深カレバ
詩ノ趣向ハ送別ノ古詩江文通カ別ノ
賦ナドヨリ知ルニ別賦ニ黯然銷魂
者唯別一而已矣況秦吳兮絶國復燕宋
兮千里或春台兮始生秋兮斬長起
是以行子腸斷百感悽惻凡昔關外而異
鄉雲漫外而音希トアリ言ハ人ノ
魂ヲケヌモノハ別レノニナリ況ヤ遠キ
秦吳ノ絶國或ハ燕宋ノ遠國ソヤ何ト
シニカナシキソナレハ春ノ昔生ニ秋ノ
凡カハレクニウラミノ端トナレ是ニヨリ
得行子モ腸斷百感カイタニキソ
サニ別リテシムカフ凡ノ音雲ノ色
モ常ニカワリスサニキトナリ如此ノ趣
向ヲ要トスルニ詩判ハ此ノ編ノ大境
ヲ取リテ文ヲ作ラハ大海波瀾ノ圍
點助語ノ抄ニ考フベシ

大意 附送別

清遊盍簪

友人ノ清遊ニテ兩萍偶逢

萍ハウキ艸人セハカクハ行ワカレテ水上ノ
萍ノ如シ友ニ逢ハハ兩萍カタニ逢フヘ
同把盃日シテ酒ヲ飲ナリ詩編同日シ

カツキツト 針芥投機 針ヲ芥子ノ先ヘ
リ遊ブトニ 針芥投機 投シテカントスル
ハ當リカクキフソアタルヨクノ機カ
熟セバナキフソ友ノ互ニ機ノ合タルハ
其機縁ハ針ト 往來不厭 朋友ハ往來
芥子ノ合タル如キソ 往來不厭 互ニ
モイトハス 舊友無幾 舊友モ別ト或ハ
アラストニ 舊友無幾 死去イクバクモナ
春色共傾 春日花ヲ見テ 氣概相投
氣分カ共ニ同シヤウナル 氣概相投
ホトニ互ニ心ヲ合スルソ 雨聲對榻 雨申ナ
向テカクカ
シニ云フソ

懷友

屈指別來

友ト別テヨリ指
屈シテカクカ

ハ何ホト久

一別光陰

一タ別レテヨリ光陰
カスミヤカニ去リ

千里相思

千里ヲヘタテ

愁入浮雲

愁ニ入リ浮雲ニ別
然ニ

テ遠ク友ヲ望ミテ

音書

音書ハ遠
信絶タル

艸芳未歸

友ノ飯ルヲニドモ春過テ艸
カ芳クナレニニカヘフヌソ

夜窓燈火

友ヲ思フニ夜窓ノ
灯火ニ對スルソ

一日三秋

一日モ不逢レハ三
年モ久シク思フ

訪友

陋巷

陋キキチクソ無官ニシテ
有徳人ト云コトアリ

柴門日上

雞黍約

雞黍ニテモ設テ友
ニ約束スルソ云リ

茶瓜

友ノヨリ逢テ

水遠孤村

水遠孤村ヲ訪フ

路ナリ

青眼

交友ノ互ニ
相喜フ意ヲ

事ニテ

不妨數去

イククモ来ル
事ニテ

興乘

一相訪

友ヲ思フ
一タ訪テ

話飄零

飄零ハ富貴榮花ニ
モナラズイツモ同シクナシ云互

懷スルナリ

開樽話舊

酒ヲ飲テ舊
友ヲ話ルソ云

對榻論文

喜友至

貧居拂榻

客カ至リタレハ
貧居モ拂ソ云

佳客叩門佳客カ門ヲ 居處僻居處ノ僻

ノサミシキ僻處ノサミシキ僻處 過茅宇茅屋ノ客ガ來ル

ナト友友ノ來ル 索居誰慰索居ハ散居ナリアラケンル

タレカ慰セント友ノ至ル 開顏相逢テヨ

シヨロコフ意ナリ 惜別コブコトソ

離別シカタル 喜同喜同 夜月見テ喜ソ 喜同喜同

夜遊喜ニシテ今夜トモニ 酒一瓢瓢トモニ酒一

相カタ故人來故人ノ來ル 忘水醴忘水醴ノ君子

リハ水ノ如クニ淡淡イツイテモカワラス小人

ノ交リハ醴如クマカニ変スルソ今此

友トハイツイテ友トハイツイテ変スルソ今此

ホドニ水醴トモ忘ホドニ水醴トモ忘レタリ 眼終青逢テ

モ心ノヲクソコモ心ノヲクソコ 雨夜吟雨ノ夜相逢テ互

ナキ友ナキ友 花時醉花ノ時ハ酒 一夕歡相逢

語リナグ 江山千里友ト江山千里ソ 對

牀夜友ト牀ノ對 十年舊十年以前

シカタリ 分袂時別レシテ袂ノ分テ去レ

叙別吟詩友ト別レシコトヲ 清談喜清談喜

聽友ノ清談カ面面白サニ 共圍碁碁トモ碁

叙參多商叙ハヒトツク 煮茗呼童煮茗呼童

互ニ遠キリ遠ク別レ互ニ遠キリ遠ク別レ 煮茗呼童煮茗呼童

久シキコトヲ語ル久シキコトヲ語ル 煮茗呼童煮茗呼童

友ノ來ソヨロコビ友ノ來ソヨロコビ 煮茗呼童煮茗呼童

童ノ呼ツカヒ童ノ呼ツカヒ 青燈雨夜青燈雨夜

熟語熟語 上客杯盤上客杯盤 紙炊黍紙炊黍 主人門卷主人門卷 正張羅正張羅

アイサツニノ云(キ)フツ
渭北春天樹江東日暮雲 杜甫

此夕ハ杜甫カ李白ノ懷ニ作りシ詩ナリ

渭北ハ杜甫カ居處リ江東ハ李白居處リ

春樹ト暮ト雲トニテ友ヲ思フ愁ヒヲ云

懷心アキラカナル

短褐ニ風霜ノ入テ寒キニタヘヌソ李白ハサ

モナクノ隱居ノ樂ミヲ得タリ仙人九

轉ノ還丹ヲ服スベキホドニ長生スベト云

ト意リ李白隱逸ニシテ年月ヲ靜ニ送ル

ト云フ仙家ノ事ニテ云タソ上ノ夕ニ杜

甫飢寒スルヲアルニヨリ下ノ夕李白ハ

イサツトアキラカニ聞ヘタリ

朋友 芝蘭之室 家語ニ善人ト居

入カ如シクシテ其香ヲキカ 孟筭 易ニ由

ガレドモスナハナト知ストアリ 豫大ニ

得ルヲアリ 疑フナケレハ 莫逆 莊子ニ子祀

朋盍簪トアリ 子輿子犁 子來四人相頌テ語テ曰孰カ死生損七ノ

一躰ナルコトヲ知ル者アフニ吾此ト友タラシ

四人相見ニ笑フ心ニ 傾蓋 家語ニ孔子

逆フコトナシツ井ニ友トナ 鄭ニユク塗ニ

ニ程子ニ邁蓋ヲ傾テ語テ終日 膠漆

ニシテ 甚ク相親ムトアリ 後漢ノ公沙穆

後漢書ニ雷義ト陳重ト友トシテ相親

ム 鄉里コレガクニ語リテ曰膠漆カクシ

ト云ヘ凡陳ト雷 杵臼交 後漢ノ公沙穆

トニ不如ト云ヘリ 太学ニ遊ニテ資

糧ナレ吳祐カクメニ米ヲ春ツクトモニ語テ

大ニ敬馬テ交フ杵臼ノ間ニ定ムルトアリ

淡交 礼記ニ君子ノ交リハ淡ニテ水ノ

如シ小人ノ交リハ甘ニシ 醴ノ如シト

貧賤交 後漢光武紀ニ帝ノ妹湖陽公

主ノ寡ナリシヲ宋弘ニマアワセ

ントテ問テ曰貴ハシテ交リシハ富ト

妻ヲ易ルハ人情カ弘曰貧賤ノ交リト忘

ベカラス 糟糠ノ妻ハ堂ヲ下サズト云ヘリ

先武湖陽公主ヲ顧ミテコトカアワズト云ヘリ

忘年友 唐史ニ張鏗重名アリ 陸贄ニ年十

ナリトシテ忘

年ノ交ヲ結フ 爾汝交 文士傳ニ禰衡逸

沙ノ交リヲナストアリ 爾汝ハ

互ニ爾ガト心安ク云テ元レシ云

同硯席 漢

書

宣帝少時彭祖トシ 總角之好 吳ノ孫策カ
硯席ヲ同ストアリ 曰公瑾ハ孤ト
總ノ用ノ好ミ骨 諍友 曲礼ニ士ニ諍友ア
肉ノ分アリトナリ 宋史ニ謝澹當世ノツツ
トア 雲霞交 謝澹當世ノツツ
リ 雲霞交 謝澹當世ノツツ
ト雲霞ノ交リヲナストアリ

○古詩 逢謝偃 高適

紅顏創爲別 白髮始相逢 唯餘昔時慮 無
復舊時容
三ノ夕ハ昔シ紅顏ノ時創ニ離別セシニ其ハ
後相逢フコトナケレバ如此老衰セトオモ
ハガリシニ今相見シハ白髮ニシテ共ニ逢トシ
三四白髮老衰ノ身ニナリテモ共ニ壯盛
ナリシ時ノ志氣ハオトロズシテ功名ノ心ハ
一ツ志シテ子ドモ復舊時ノ容ナレ終ニ志ヲ
遂ルコトアルニジト老ヲ歎ジタル意ナリ

傷友 白右易

陋巷孤寒士 出門苦柶 雖云志氣在 豈免
顏色低
此ノ詩古詩ノ體ナリ交道ノイタミニ作リ
此四夕ノ意ハ陋巷ニ貧シクニ夕ヨリ少キ
孤寒ノ士平生ニシテモ常ニ愁多ク門ヲ出ハ

又若ニ柶トマスカケヌソ三四ハ平生學術
知識人ニシトラシト志氣ハアレ民榮達ニテ歷
々々人ニ逢フニ顏色クシテカバムヤウナ
事ヲ免レニシトアリ
平生同門友 通籍在人間 在昔膠漆
契 邇來雨雪霰
平生心ヲ共ニシテ同門下ニ遊シ官ニ仕

ヘテ共ニ金匱ニアレドモ官職ノ貴賤ニヨリテ
雲雨ノ相ツムキタル如クニナリツツ
正逢下朝歸 軒騎王門西 是時天久陰 三
日雨凄凄

門ヲ出ニ若ニ柶タル如何ト云ニ先ツ官
人出仕終ニ朝廷ヨリ下リ歸シハ軒
車駟馬ニノリニ王門ノ西ハ出ル其時
天モ久シク陰リニ三日モ雨カ凄凄トツツ
賽驢避路立 肥馬當風嘶 迴頭忘相識
台道土沙隄

此雨ノ中泥土ノ中ヲ行クニ大官ノ御歸トテ
先ツハハハ孤寒ノ士ハ足ナヘタル駟馬ソ
引入ニ道ヲサリノキテ通スソ大官ハ駟
馬ニカカリ由ケレクニ馬ハ凡ニムカヘテ嘶キ
ナドシ美々シク見ユルヲ然レバ頭ヲ廻シテ
折見ニモ年比ノ相識タルモ人トハ志レ
タル顔ヲスルリ孤寒ノ士カ顔色ヲタル

ハコトハリナリ
昔年洛陽社貧賤相提携今日長安道
對面隔雲泥

昔年洛陽ニアリし時ハ同社ニテ互ニキヲ
トリテ提携シツレト人々ノ幸不幸ア
レバ官禄貴賤アリテ今日長安ニテハ
路ニテ對シテモ天雲ト土泥トホドニ遠ク

隔テタルナリ
近日多ク如此非君獨慘悽死生不変者
唯聞任與愁

古ノ君子ノ交リハ當世ハナケレハ近日ハ多
ク如此ナルコトヲ君獨リ交リノ薄キヲ
イタムニテハナキナリ死生ニ交リテ終テ
カワラヌハ任與愁二人ノ外ニハキカストナリ

送別大意

一船離恨 友人ヲ送ル船ニ別ノウラフミ各天
一涯 互ニ天ノエカ野店 野原ノ宿荒村旅

ノ經過スル 雲千里 行方ノ遠 酒一危 別ニ
處ヲ云ニ 去遠留詩別 遠國へ行ホ

別ルナリ
留ムル 愁多任 酒蘸 別ノ愁多ケレバ
トナリ 多ク飲テ 同雨散 人ノ相逢テ又別 隨江
忘ルナリ 鳥宿 旅行ハ江島ナド 共嶺猿愁 行路

後ノ愁ハ声ト 共ニ愁ニトナリ 共對一樽酒 別ニ臨テハ一
共ニナゴリ 相看萬里人 別レニゾミテハ方
ヲ惜ムナリ 相見ルナリ 遊子意 遊子ハ旅人ノソ
モシラ子バ互ニ 相見ルナリ 遊子意 遊子ハ旅人ノソ

思フ 故人情 別レトスル故人ノ情 離筵
別レシヲ惜ニ酒不盡 征路 旅人ノ只人ヲ
スル席ヲ云リ 行路ヲ云リ 露

宿凡 旅人露ニ宿凡 凡送櫓 順凡
モ送リ 舟モ 小雨有情 留客 任 惜ムヲ知

テ情カフルト見ヘテ 北去南來 北へ歸リ
暫ク客シトムルト 隨テ長トスルコトヲ

々へ行 恨隨春水 離別ノウラフミ水ニ 故

コトヲ

郷退々フルサト退々ト 他日相思他日ハ別レテ後ノ

日ソ別後ニ分袂去別レテ去ル 事ソ共筆硯共ニ筆硯ヲ用ヒテ

日古交アリシ佳音ハヨキ名ヲトシ又 親舊相逢親舊ハカヘリタラバ定テ還

家樂家ニ歸リテ父母兄弟 親舊相逢親舊ハカヘリタラバ定テ還

熟語 人生在世間杜少陵

聚散取亦暫時聚散ハ取リテ亦暫トモ

此夕言ハ人生世間此世ニアレ間ハ暫トモ

取散取トテ相逢モ又相別ルモ亦暫トモ

間ナリト云意ソ此夕ハ子ノ用ヒヤウヨク意

得セシ相逢ニ遊學スルカトオモハバ暫トモ

間ニ相別ルコト來ル故ニ相逢ナラバ親切ニ

スベシ相別ル間ニ暫トモナリトモ別

離ノ直交ハ甚シキホドニ暫トモナリトモ

思ワズトナリ古人ノ文字輕ク看過スベ

會合苦不交會合ハ苦シク不交ス

哀樂本相纏哀樂ハ本ニ相纏ル

此夕言ハ友人會合スルコト思ヘハ又離別ス

相逢フ久シカラサルヲ苦ムリ是ヲ以テ

見レバ相逢フニ別アリ離別ニ相逢喜

アリ本ト會別ト哀樂トハ相ニトフテ不

コト、思トナリ作見翻疑夢 司空曙

相悲各問年此夕言ハ久シク別テ乍見テハ却テ夢ニ相

逢カト思フ又相別テ行ナレバ相悲テ互ニ

年ハ幾バカリソト問フ老テ餘命モ少ケ

レハ再會モ不知ト思ナリ此夕ハ久別ノ意

ヲ疑夢問年四字ニシテラセタリ久別

ト不云ヒテ久シク相見サルコト可知ナリ

故事 歌驪駒大戴記驪駒ノ歌公遠

此夕歌ソ其詞ニ曰驪駒在門僕夫登山

具存驪駒在路僕夫救正駕楚辭楚辭

臨水楚辭楚辭 送將歸楚辭楚辭

故吏又ニ銷魂長安灞陵ノ東ニ橋アリ來ル

用ユル 醉中分袂蕭鳳玉門關ニ使ヒス蕭

呼テ銷魂魂橋ト云 醉中分袂蕭鳳玉門關ニ使ヒス蕭

魂橋ト云 醉中分袂蕭鳳玉門關ニ使ヒス蕭

中ニ袂ヲ分テ不悲ト云リ

陽關曲王維

已上出機活法

心苦肝酸樂天カ生離別ニ食糜不易食
梅酸梅酸能苦酸酸在肝酸酸在肝酸酸在肝酸酸在肝
別別之爲難苦苦在肝酸酸在肝酸酸在肝酸酸在肝
月月没征馬重嘶行人出回看骨肉哭一聲
梅酸梅酸能苦酸酸在肝酸酸在肝酸酸在肝
耳耳如蜜

送別 贈韋執賢善別
扶病送君發 自憐猶不歸 祇應盡客
淚復作掩荆扉 江漢故人少 音書自此
稀 往還二十載 歲晚寸心違
二三夕言ハ今執賢善カ發スル我病ヲ扶テ送
ルリ此ニツケテ自憐ハ我蜀ニアリテ歸ル
ヘキト思フテ終ニ飯ルコトヲ得ヌト歎スルカ
リリ三四夕君ハ去我飯ラズカタク愁ニ
多ケシ稀客淚モ流レテ今ハ欲盡ソ君ガ
去タラバ共ニスル人モナクテ復巴ハ荆扉ヲ
掩ヘシトナリ五六ハ江漢ノ間タニ君去レバ
故人モモスレ少シ別テ遠方ナレハ音信
書通モ是ヨリ稀ニナルベキソ七八ノ夕今
ニシテ往來二十年ノ親ミナレバイツミテモ
思ヒニ歳晚ニ如此ノ別離アレバ年来ノ
知存ノ寸心ニ違フテ悲深シトソ

汶江送魏十八還京因寄岑中允

參差范郎中季明 杜少陵

遲日深江水 輕舟送別筵 帝鄉愁緒
外 春色淚痕邊 遠見酒須相憶 將詩莫
浪傳 若逢岑與范 爲報各衰年

二ノ夕言ハ今春日ナレハ江水モ深キニ輕
舟ヲ汶ヘテ別テ送ルリ三四ノ夕ハ玄宗
肅宗ハ崩ジタニニ今年三月己ニ葬ル
ナレバ帝京ハ限リナキ愁緒ノ外ニアリ
春色モ淚痕ノ邊ニランバカリニ客愁
ヲ慰スルヲナキソ五六ノ夕ハ此ニ別テ
後ハ酒アルヲ見テハ互ニ相憶フヘシ詩
ナドアリトモ浪ニ人ニ傳ヘラレテ詩ニ
得ベキモコソナリ七八ノ夕ハ若シ彼ノ地ニ
岑ト范ニ逢フアラバ傳言スヘシ岑參
范季明モ定テ老衰シツラン杜甫モ己ニ
衰年ニナリタルトナリ

送客 王申文

細數歸鴉定暮春有詩便寄莫辭
類此身恰似啣泥燕日夕來尋舊
主人

三ノ夕言ハ飯鴉ハ客ニ比ス今此客ノ
行ハ其飯ルヲ數ヘミルニ定テ暮春ニ
ナリテ飯ルベキリ詩アリハ必寄セタ
コト類リニシバクナリトテ詩スヘカラ
サレソ三四ノ夕ハ我ハ此ノ身ハ泥ヲ
フクムツバノ如クニ日々ニ君ガ飯ルヲ
待マビテ來リ尋ントナリ

夜與故人別 于武陵

白日去難駐故人涉舊客今宵一
別後何處更相逢過楚水千里到
秦山萬里話來天未曉月落滿
城鐘

此詩一ニ夕言ハ白日ノ去ハ細田ノ難ニ故
人ハ老テ旧客ナシ三四ノ夕ハ今宵別
ニ後千何處ニカ又逢ヘキ不知ナリ
五六ノ夕ハ如何トクハ楚水ノ過ハ千里
ノ水ナリ秦ニ到シハ千里ノ山ナリ逢
コト難カルベシ七八ノ夕ハ一夜語リ別
惜ムニ夕夜アケザルニハ滿城ノ鐘
カヒキテ別ヲ催ス愁ヲメシトナリ

○祝壽總論

唐ノ白居易會昌三年九老ヲ會シテ
東都ノ履道坊ニシテ尚齒ノ尊集アリ
此詩白居易詩ニ七人五百八十四アリ
其後宋ニ文潞公モ唐ノ白居易九老ノ
會ヲ慕テ洛中ノ公卿大夫ノ年德
ノ高キ者ヲ集テ耆英ノ會アリ其
詩ハ人口ニアリテ祝壽ヲ祝スルモ宴會
アルニモ此二十余篇或ハ五老ノ圖詩
ヲ本トシテナリ祝壽ノ旨大概如此
ナリ祝壽ハ松竹龜鶴ニ齒コノ長キヲ
ナゾラヘ南山ノ壽ニ比シ神仙ノ不老ノ
道アルヲ引タトヘ老ニモ能ク宴飲
シテ詩ヲ作リ山水ヲ逍遙シテ人
間ノ樂ニミシ書スル兒孫ノ生長繁榮

たんろつ子云云其最モ故事ヲ用テ
年徳ヲホムル意アリ夕キコトナリスベテ
宴集ハ皆吉札ナレバ別ニ檢論ヲ不立
ナリ賀新居モ皆祝詞ナレハ大意ノ
語ニ一韻ヲ作為スベシ
大意

龜齒鶴髮 仙藥靈苗 共ニ不老 不死之藥

南極壽星 南極老人星ハ壽星ナリトアリ

益壽 垂白髮須 神還壯 神ハ少壯

林泉盤桓 老ハハツトツトシテ林 泉ノ間ニ盤桓シタリ

霜髯 就安閑 老テ何ドモヤメテ心安

笑傲林泉 老名人林泉ヲタシシテ笑

優游唱和 ユタカニ遊ヒ詩ヲ作シキリ 友人ト唱和スルソ

高共同 老人ノ共ニ出會 與退老遊 官

止テ老ヲ樂ム 燕英 髮毛 酒食ニシテモアラス

人ト遊シタリ 長生ノ得 壽命ヲ延

髮兵點霜 同山岳 壽ノ長キヲ山 岳ノ長クナル如ク

麗眉 麗ハ若ナリ老人ノソ 此句言

若君眉ノ老人カ相アツテ俱ニ壽長

キヲ稱シ流ス此老人ハ雪ヲ凌キ喬松ノ

寒ヲ畏ガレ如ク今日ニ至リ俱ニ節義

ヲ守リタリ 花朝月夕隨時樂 杜衍

雪鬢霜鬢滿坐寒 此句言ハ老去テハ花朝月夕ニ時ニ隨テ

樂ムリ此意ハ夕ノシニフ時ハナシ常ニ夕ニ

トシんハレ雪ノ如ク霜ノ如ク 鬢兵鬢ナシ

ハ滿座カ寒キキ色アルトナリ此寒ノトモハ

氣ノ寒温ヲ云ニアラス霜雪ノ色ニヨリ

テ寒ト云ナリ

醉遊春園煙霞暖あり 馮平

吟聽秋潭水石寒

此夕言ハ酒ニ酔テ春ノ圃ニ遊ハ煙霞モ
暖ナリ上意ハ烟霞ノ暖カレリ面白サニ酔
遊カ濃カレト云フソ水石カ寒リスサニ
ジサニ吟ウ咏スル詩カ清高ナリト云フソ
故交 南山之壽 詩魯頌ニ如南山之
壽如松柏之茂トアリ

大椿 莊子上古ニ大椿ト云モアリ八千
歳ヲ春トシ八千歳ヲ秋トスアリ 蟠桃
漢武故交ニ西王母桃五ツアリ武帝ヲク
テ曰此レ三千年ニ一タヒ花サキ三千年ニ一
實ル 仙棧靈瓜 十州記ニ扶桑嶋ニ木ア
ト云リ 桑ノ如シ其ノ實棧
如シ九千年ニ一 冰桃雪藕 類書ニ西王母
夕ニ嘗ハルトアリ 万歳ノ冰桃千
歳ノ雪藕ソ周ノ

朱顏華髮 類書ニ曰
穆王ニ進タリ 宋史洪宗
直翁ト云ヘリ淳熙年中ニ冠ヲ挂テ四州ハ
飯リ隱居ス年八十八兄八十二兄弟四人皆
上高ニ年ニテトモニ至親アリトモニ觴ソ
舉テ相夕ノシム皆朱顏華髮ナリ 廣

成長生 莊子ニ廣成子崆峒ノ上ニ居ス黃
帝征テ訪テ至道ヲ問フ廣成
子曰雨カ形ソ勞スルヲカレ雨カ精ヲ搖
スナカレ乃長生ニ至シ我身ヲ修テ千二百

歳ニゾ形 飲菊水 夏文類集ニ東坡カ
水耳シラサカレ居民二十余家アリ其水
ヲ飲者皆壽ナリシ或ハ百ニ三十歳ニイ
タル 摩銅狄 類書ニ曰東漢杜劭子訓一老
トアリ 論ト共ニ銅狄人ヲナテテ相
カケリテ云ハ高コシシ 鑄タルヲ見ケリ今
五百ニ年ホドニナルベト語リトナリ

賜靈壽杖 漢書ニ孔光ニ靈壽杖ヲ
竹ニ似テ杖節アリ 註ニ靈壽木ハ
自然ニ杖ニ木トナリ 壁上記詩 纂要ニ
宋ノ真德秀湖南ニ帥タリ潭人生相ヲ
立テ祝ヒタリ一夕人アリ 壁ニ詩ヲ題ソ

日與世知公不愛名 湘人若欲置丹青
西方又出一活仙 南極今添兩壽星 幾
百年カカ鐘間九八千春 願祝修
不須更作生詞記 四海蒼生口是銘
ト在リ 老子出關 雲齋錄ニ云錢穆

父京府ニ尹タリ生日

五天竺ハ仙國ナリ此二境ノ除却シテ
人間世ニ此會ノ如クニ高年徳位ノソ
ナワリタル會ハ
アルニジトナリ

贈會遺老李元來禪僧如滿詩

雪作鬢眉雲作衣遼東華表暮
雙歸當時一鶴更希有何人逢

西人威

此ノ詩一二ノ句言ハ年老テ白髮ナレバ雪ニ
鬢須眉トシ雲ヲ衣トシテ仙人カト思フ共
シテ令威カ仙人ニナリテ故郷ヘカヘリ鶴
ニ化シテ遼東ノ華表ニ集リタル如クニ西
人長壽ヲタモフテ故郷ヘカヘリタナリ
三四ハ昔シテ令威仙トナリテ一鶴カ歸リ
タルサヘ希有ノフナルニ何ニイワセヤ二人ノ令
威カ歸タルハハレ九高壽ナリト云意ナリ
宴大意 盃浮桃葉酒ニ桃葉ヲ浮テ
神松梨花宴遊ニ花ヲ見梨 醉鄉寛
一花ヲ神ニ松ヲソ

酒ニ酔タル中ハ心實ニ何
如霜葉ノ酒
又モ心ニカウヲトナリ

顔色紅井ニナリ霜
主人不厭ノ宴飲
葉ノテリタル如ナリ

更深酒盡
長宴ニテ酒盡キ
トワユフツ

小宴追涼
六七人モアツテ暑ク
ナキ如ク追尋テ宴飲ス

每醉還
子ニ宴集スレハイツ
本不期
初ヨリ約束ナケレバ

盈樽酒樽ニ酒
十クタリ
フトアツテリタルナリ

題詩玩月
詩ヲ作リ月
秉燭回
宴ニ遊ニテ夜ニナリ

燭ヲトモシテ回シテ
云何始兼燭回トモアリ
夜深ルトモクニ

レカラスト可獨醒
坐者カ皆酒ニ酔キ
ムコトソ

醉郷日月
酒ニ酔遊樂ニテ送
シトス

坐花醉月
坐シテ花ヲ見醉テ
不
月シナカムンシ云リ

醉無歸
酒宴ニ歡ヒソ盡ストド
狂花
ニ酔サレハカヘラナリ

病葉酒ニ酔テ怒ル人多ク狂花ト云リ
ヨソ眠ル人ハ病葉ト云醉客ノ鼻
名凡榭醉眠凡ノスニキ知ノ酒如
ソク酒多ククワハ醉如泥酒ニ酔テ
泉酒クミクミ泉ノ如ク醉如泥酒ニ酔テ
ナリトナリ泥トハ東海ニん虫ナリ水
中ニテ活ス水シハナルレハ泥ノ如ナリ骨
ノナキ倒玉山酒ニ酔タレ体ハ玉當
出リ倒玉山山ノ倒ス如ナリ
書量量ノ量ハ酒飲ム器量リ主人ヘノ
アイサツニ器量ツサニス飲キキ
熟語 盃筭既屢直從竹間 范淳夫

爲具雖疎不愧負

此言ハ盃筭ト相集ルル屢ナレハ費リテ
益ナシ只竹間器量ニ從フツ直トスル具ヲ
爲ニノ飲食スルモノハ疎ナレハ誠實ノ交
友ナレハ愧ルルモナキソトナリ
淡水論父自忘味 鮮干子駿
道腴充實不知負

此言ハ君子ノ交リハ淡水ノ如ナレハ交リヲ論
スレハ味ノナキ如ナレハ味ヲ忘ルル互ニ
相求ル心アレハ味ヲツケテ交ル然レハ
醜ノ如クナリニヤガテ酸シナリノ君
子ハ道ニテコリト交レ味ニテハナキ味
ヲ忘レタルカ直味ナリトリ腴ハ肉ク
アラニテ味ノムキモノソ道ノ腴ハ魚
肉ノ腴ヲ食シタニカリテ一ク道ノ
腴ニアハハ常ニ充實スル故ニ河ノ筋ノ
腴モウラヤムフナレシ常ニ道ニアキタレハ
分負ヲ知ラズトナリ 司馬君實
不待珍羞方下筋
只將佳景便娛賓

此言ハサレノ珍羞ヲ待テ食スル
及ハス竹節ヲ下レシテ人良ス此宴ハ口ハ佳
景ヲ以テ坐客ヲモチナレタノレシ充
トナリカノ字只ノ字將ノ字便ノ字
虚ナリ虚ノ字此ノ如ク用ユヘシ皆客ヘ
アイサツナリ

冬日會諸同年宴鄭家林亭
得先子
白居易

盛時陪上第暇日會君賢桂折
應同樹營遷各異年賓階紛組
綬妓席儼花鈿促膝齊榮賤差
肩次後先助歌林下泉銷酒雪
中天地自昇沈者無忘共此筵

此詩一二ノ句言ハ今太平ノ盛時ニ逢テ
此上第ノ遊ニ陪從スルノ上第ハ上宅
ナリ官吏ノ暇日ニ君賢ヲ會セラレ
タリ三四ノ句ハ今諸同年ハ及第シテ
桂ヲ折タルハ皆同樹ナリ營ノ幽谷ヲ
出テ橋木ニ遷リタル如クニ官ニ升リ
人々年ハカリハ異ナルソ五六ノ句官人ノ
集リテハ賓客ノ上ニ階ニ官人ノ帶ル
組綬カ紛々トシゲキリ宴坐ヘ妓カ出
レハ雲鬢ニサシタル華鈿カ儼然トゴソ
カニ見ユルトナリ七八ノ句ハ互ニ膝ツツ
テ心マスク遊ヒテ貴賤トモニトシクシ
年ガタガヒバ年老ヲ上坐次ツルソ差
肩トハ禮記ニ五年以長則肩有隨之

トアル下リ朋友ノコナリ九十ノ句歌聲
ヲ助ルニ林下ニ泉音アリ酒ヲ能ク消
スニハ雪中ノ天ナレハ早ク酒ガサトルソ
上句ノ句ハ他日此座中ノ人或ハ高官
ニ昇リ或ハ下賤ニ沈タリトモ互ニ此會
ノ筵ヲ共ニシテ遊タルソバ忘レマジ
トナリ互ニ親切ニ交リ遊ヒテ心ノ和
ミタル所見ヘタリ

飲散夜歸贈諸客 同

車馬夜紛々香街起時塵迴鞭
招醉妓分火送歸人凡月應堪
待盃觴莫厭頻明朝三月盡
悲不送殘春

此詩一二ノ句ハ宴罷テ車馬カ夜紛々
ト多クカヘレハ香街ノ火ニシテモ時塵カ車
馬ニテ起ルリ三四ノ句ハ迴鞭ヲ以テ戲
ニ酒ニ醉タル妓ガサシメサ本レヨトテ招キ
互ニ火ヲ分クアタヘテ燭ヲトモシテ飯ル
人ノ路ヲ送ルソ五六ノ句ハ諸客ヘ申

ス凡月ノ會アルヘシ待夕ニハ盃觴ヲ飲
遊宴ノ類タルヲ厭フヲナカレセハノ夕
ハ明朝ハ三月ノ盡ル日ナレバ此ノ如クニ
宴遊ニ醒醉シテ暮暮セハ春ノ飯モ不
覺ホドニ春ノ飯ルヲ惜ミ忍ビテ殘春
ハ送ルニシテ醉テ春ノ飯ルヲシボヘヌホド
遊ブベシトナリ

故友 投轄留賓 事文類聚陳遵
字子孟公嗜酒留賓

客アリテ堂ニ滿ル客ノ車ノクサヒトリ
テ井中ニ投シテ急アリテモ飯サヌトアリ
至晚無佳設 客ノ早ク來ル者ハ佳設
ニテモテナス日夕ケテ來ル者ニ何ニテ
ナリトモモテナシ食セシム必シモ精シク
トシノヘズ美食ヲ以テモテナシ人皆
盛膳ニ食セシム其時ノ人言ハ固豊
羊固ハ臨海ニ拜セラシト時ニ客來ルハ
早晚ニカガラス美食シテ以テナス人皆
盛膳ヲ食セシム其時ノ人言ハ固豊
華ナレバ漫ク具率ニハシカズト云レト
不飲而好賓 梁羊偏酒ヲ不飲計院
賓客ヲ好テ献酬

遊シト好觀醉 後周ノ長孫澄自ラ酒
ナリ好觀醉シ飲テ不能シテ客ノ
醉シテモテナシ好ム客ノ飯ト云テ恐
レ種々ニモテナシクアリトアリ同上
鋪花爲烟 天室遺事ニ學士許慎
花シアツメテ坐ニシキテ吾自花烟
アリ何坐具シテモ今ニシトナリ
作眞率會 事文類聚取此記純仁
客ヲ好テ眞率ノ會ヲ作セリ相
約シテ脱粟一飯酒數行ナリ日々ニ
過從ス傾筐倒篋 類書纂要ニ
王右軍カ郝天
其二弟司空中郎ニカカリテハ王家
ヘニ謝カ來レハモテナスニ送ラカタムケ
倒ニシテアルホトノ物ヲ出シテ
モテナス沙カ筆カ來ル平々耳ナリ
酒霍肉 漢ノ鮑宣カ傳ニ宿客ヲ好
酒ハ將水ヲ用ル如ク費ヤシ肉ハ霍佳ヲ用
五ヤウニセシトナリ
昏不故友

爾雅ニ婦ノ父母ヲ婚ト云婚ノ父母ヲ姻ト云白虎通ニ婚ハ昏時ニ礼ヲ行フ故ニ婚ト云婦人ハ夫ニ因リ故ニ姻ト云ナリ礼ノ郊特牲ニ婚礼不賀人ノ之序也ト云故ニ古來名賢ニ婚ヲ賀スル詩ナシ也志ニアル人ハ此作アハカラス近世ハ婚礼ノ後ニ親陳宴集アリ其詩作アラハ前ノ祝壽宴集ノ趣ト大抵同ナルハ是故ニ婚姻ノ故交數件ヲ此ニ記スナリ

牽絲 天憲遺事ニ唐ノ郭元振轉牽ウルハレカリシ宰相張嘉

貞誓ニセトニ共ニカタリテ日吾ニ五女アリ各ク絲一スギヲモタセテ幔後ヲクヘレ子具糸ヲコケト云元振糸ニ五色アリケルヲ紅ノ糸ヲ牽ケル第三ノサヲ得 竹筍木履 山堂肆考東タリトアリ 皆練裳衣布被 爲帛示五サアリ

竹筍木履ニテヤリト云訓ニ同上度家カ孤兒ノサ名サト云ナントニ一荊若ヲ以テ箕帚トシテ訓セシトナリキヨキ知ハスニキリ

春煦暖 春日煦中アタカカ襟ニ子ムニモ好ソトナリ

懷爽 屋カ清涼ナレハ心モサヤカニケガレナクヲボユル

晴窓寬 晴タル時ニ窓アキウカナレハサレキモヒロク寬カス

松風清 松ノアハ知ハ松ノ声カレテ遊フ心カ清キリ

連屋 山ナドノ高キ市井縣酒

近キ市井アリテ 月亭夜飲ノ月酒ヲ沽トナリ

倚山牕閣 山邊ニ作り夜飲ニキリ

門臨流水 水邊ノ近キ樓臺

上ニ半牕花影 窓ノ半ハ花影カクワリテ一面白キリ

虛明窓戶 二トモウモハツキ

庭州色 庭ノ半ハカハ柳垂門外

門外ハ柳ヲ 曉山擁ハ 曉ノ山カウヘタトナリ

クリリナ 竹痛輕凡竹ノレダリタルニ
フルツ 斜日ノレドニウツリ
アルサ云云 斜日ノレドニウツリ
書ノ中へ入レハ 蠶カ食セヌユヘニ書
藏ニサ云云 然ルリ 然ルユヘニ書 齋
シ云云 空ト云云

弔亡松論

晋ノ陸機ト云人歎逝ノ賦ヲ作り
シカ其意ハ川ハ水ヲ流テ川ト云
川ハ常ニモアレバ水溜タトコト日
々ニ去レバモト水ナシ世ハ人ヲスレハ
レテ是ヲ世ナリトスレハ世ハ終ルコト
アハカト思ヘド人ハ丹々トシテ死シ去
レバ昨日ノ人ナシト云意ヲ作リテ死
セテ傷シナリ悼亡ノ作意ハ此也
擢玉折ト云或ハ埋骨ヲ招魂ト云人
品ニヨリニ埋玉ヲ沈珠ト云殊更ナ
ル知音ハ伯牙カ琴ヲ破リレニタト
ヘテ絶絃ト云吳ノ季札ノ徐ノ
君ヲ思ヒレニ比レテ 擢花 露ニナゾラヘ
命ノハナキヲ 槿花 露ニナゾラヘ
生涯ノ己ニ盡シテ世事ノ空シキヲ浮

雲流水ノサタメナキ意ニ咏ヒテ相
見ノ夢トモ絶ニ酬和ノ詩ナト殘
ニ悲淚長夜ノ作爲レんヘシ古人ノ
詩ヲ以テ情ノ至極ヲ知レ

大意

埋玉 死シ去リタル人ヲ惜
トナリ 沈珠 三日シ珠玉ハ人
ホニレト名トシ 生涯盡ク命ノ終タル
コリタルトナリ 悲長夜 長夜ト

一丘 名ハカリ殘リテ 悲長夜 長夜ト
一丘 只一丘ノ土ノミナリ 世事空 世間ニテ
泉下ニ眠ルユヘニ言リ 死シタル人ハ逝水ノ逐 墨痕濕

死シタル人ハ逝水ノ逐 墨痕濕
復ハ空ニク 松下塵 死シテ松根ノ逐
ナリタリ

逝水 死シタル人ハ逝水ノ逐 墨痕濕
人ハ去テ年跡 一夢空 一夢ノサマタ
カ殘リタル

事蕭條 今ニテノフハ昔ニ
白泉下ニ入 硯生塵 詩人ハ詩モ今モ死
タトナリ

シタ、為^レ君攬^レ淚、死友ノタメニ淚、魂不返
死シテカハ、不^レ為^レ塵、死去テモ徳ト名ハ
シテ、^北身トナリニナリ
玉樓人去、死シ去リタ、幾人存、是人ノ
ス、幾人カ存スルソ、埋骨^泉黃壤、泉下ニ
皆死スルソ、^骨埋
ト一^堆黃土塚ノ、冥魂^香香々^死死シ
タル魂^香香々ト、玉瘞^青青山^葬葬リタ、^苗苗而
不^レ秀、^若若年ニテ死シ、^黃黃泉下^地地下ノ
千秋不^レ寤、^千千年モ地下ニ子ムリ、^命命如^レ
朝露、^命命ハ朝露ノ、^忽忽如^レ寄^レ人生、^旅旅舎
ト^身身ヲヨセテ、^無無金石固^人人生ハ金石ノ
暫ク居ル如クナシ、^如如クニカタキ
ナキ、^熟熟論
隴頭松柏半無^生生、^張張籍

地下白骨多於土

此ノウハ塚ノ上ノ松柏ハ先樹ニナリ、
半ハ主ヲキリ、地下ニ埋ミタル白骨、
ヨリ多クアルソ、半ハ無主多於土、
字甚タ感慨アリ、^吊吊亡ニ此意ヲ用ヒ

下有陳死人、古樂府

香々、^即即長暮

此ウハ塚ノ下ニ昔シ死シタル人アリカ
香々トクシキ如ク、^長長夜ニ即テ居ルト
ナリ、^陳陳死ノ人、^即即長暮ノ字用キ
字ナリ

一時事逐黃流去、前人

千古名華大華高

此ウハ一時ニ成シタルハ、此人死スレバ、
流水去テカヘルヲナシ、^千千古ノ傳ル名
ハ大山ト高キソ、^事事ノ子去
ノ字名ノ字高ノ字可^玩玩味ナリ
故事、^埋埋玉樹、^晉晉康亮薨、^何何克
嘆シテ曰、玉樹ノ地

中ニ埋ム何ソノ人情 一朝千古 唐史ニ薛牧卒ス秦王兄

ノ子元敬ニ書ヲアタヘテ曰 夢桑 凡鰥

豈期セシマ一朝千古トナラシム 集三丁

固夢ニ井中ニ桑ヲ生スト夢ミテ趙ニ問趙 君カ壽此ニスギト

答ニ曰桑ノ文四十八ナリ 陸機歎逝賦ニ川水

云果シテ川 閱水 然心トナリ

ヲ閱テ 物之自然 漢書文帝ノ遺詔

世成アリ 物之自然 ニ死者天下ノ至理

物ノ自然ナリ奚シ 忽然長逝 傳玄

哀ムニ足ントアリ 詩ニ忽然長逝

詩ニ忽然長逝 夢倚槐樹 伽藍記ニ

火滅シ烟消スナリ 淵夢ニ槐樹ニ倚ト夢ム湯元慎リ

淵夢ニ槐樹ニ倚ト夢ム湯元慎リ 月犯必

曰是レ死ナシ槐ノ木侑ノ鬼ナリト 微

微 晋書ニ月カ小微星ヲ犯シタレハ古

者曰隱士ニアタルヘシト云時ニ戴逵美

オアル人ナリケレハ士人は シ夏安ニ俄ニ戴逵卒セリ

○ 古詩

哭李常侍嶧 杜甫

一代凡流盡脩文 地下深斯人不重

見將老失知音 短日行梅嶺寒山

落桂林長安若箇伴 猶想映貂金

此詩脩文ハ故夏ニ顔淵早ク死シテ地

下ノ脩文即ニナリタレト云ルニ二ノ句言

ハ李嶧ハ無雙ノ文人ナリシニ今死シ

去リタレハ一代ノ流凡ハ此人死シテ盡ク

リ其オヲ以テ地下ノ真官トナリ脩文

唐史ニ薛牧

卒ス秦王兄

集三丁

君カ壽此ニスギト

陸機歎逝賦ニ川水

然心トナリ

漢書文帝ノ遺詔

ニ死者天下ノ至理

傳玄

詩ニ忽然長逝

夢倚槐樹 伽藍記ニ

淵夢ニ槐樹ニ倚ト夢ム湯元慎リ

月犯必

微

晋書ニ月カ小微星ヲ犯シタレハ古

者曰隱士ニアタルヘシト云時ニ戴逵美

オアル人ナリケレハ士人は

シ夏安ニ俄ニ戴逵卒セリ

○ 古詩

哭李常侍嶧 杜甫

一代凡流盡脩文 地下深斯人不重

見將老失知音 短日行梅嶺寒山

落桂林長安若箇伴 猶想映貂金

此詩脩文ハ故夏ニ顔淵早ク死シテ地

下ノ脩文即ニナリタレト云ルニ二ノ句言

ハ李嶧ハ無雙ノ文人ナリシニ今死シ

去リタレハ一代ノ流凡ハ此人死シテ盡ク

リ其オヲ以テ地下ノ真官トナリ脩文

即ニナレベキリ深シトハ地下ナレハ遠キ意

リ三四ノ句ハ此人遠別シテ居タルカ嶺

南ニシテ死シタレハトニ重ニ相見ルヲナシ

吾ニサニ老ナントシテ好知ニ音ヲ失タルト

ナリ五ノ句ハ人短日ニ嶺南ヨリ李

嶧ハ欄飯ハ大庾嶺ヲナグリ寒山ハ

寂々トシテ桂北ノ時ナルヘシ七八ノ句ハ

惜ムベキハ長安ニシテ箇ノ同伴アリハ

李嶧ハ貂金ニ映ズルハ重テナキホ

ニトナリ貂金ハ冠ノ名リ

哭李文芳尚書 同

涕灑不能收 哭君餘白頭 白童相

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

顧盡宇宙此生浮江南銘旌濕湖
凡井送秋還瞻魏太子賓客減

應劉

此詩魏太子曹芳太子曹丕太子
タリシトキ應劉楨太子ノ賓客
トナリシノ一代ノ文人ナリ三ノ句言
李之若死カ死シ悲哀シテ涕ヲ収カケ
リ君ヲ哭シテ涙ヲ収ムルノアケホ
ドニ悲ムモノハ白頭ノ老柱ナリシ殘
タリナリ三四ノ句ハ白頭ノ老柱ナリ
顧ニ友トセシ者ハ皆死シ盡テ我
人ノコリタレド吾此ノ生モ大海ノ邊
ナレバ今日モ不知コソ五六ノ句ハ
立タレ銘旌モウレホ湖邊ノ月ニ墓
ミ今モ荒ルソ還瞻テ惜ムヘキハ
太子ノ賓客己ニ亡テ魏ノ太子カ應
劉楨ヲ減シタレハ同ジカレト主上モ
カナレミアラフトナリ

哭賈島

姚合

杳々黃泉下嗟君向此行有名傳

後世無子過今生新墓松三人空
塔月三更從今舊詩卷人見寫

應

此詩一ニノ句ハ杳々ト公卿九黃泉ノ
下ハ飯ハベキ路ナケレハ我ハ君カ此ニ向テ
行テ嗟クノ三四ノ句ハ世ニ死シテ名ハ後
カヒテ官禄モナクニ死シテモ名ハ後
世ニ傳フベキカ只恨ムベキハ無子ニシテ今
生ヲ過タリトナリ五六ノ句ハ賈島シ葬リ
テ新墓ヲ築キタレド松三尺ノ外ハ
ナキソ厚ク祭リテ酒食長ク奠スル
モセテソ只空塔ニ月ノ二更ヲ照ス
ノミアラハレシソ七八ノ句ハ賈島生前
ニソソノ洛魄トシテ今クブレタル者ナレ
實ハ至極ノ文人ナレハ今ヨリ此人カ
舊詩卷シ人々見テアナムコナク
取アツカレ争ヒウツスベシ是コソ知己
朋友モ心ヲ慰スベキコトナリ

○僧摠論

晋ノ石虎カ胡僧佛澄ニ敬ミ事ヘシヨリ
国ノ民コレニ化シ始ニノ寺ヲ造リ長ク
削ニ出ル家ス是中國ノ人ノ僧トナルノ
始ナリ僧ノ上人ト云徳ト云比丘ト
云或ハ善覺或ハ沙門ト云遊行ノ僧
シ飛錫ト云ト安住ノ僧ニ掛錫ト云稱
号ハ無數ナシト詩ニ用ガク趣向ハ
塵機シ息ニ林泉ニ遊ブ意心ニ定
着ナクシニ遊行ハ東西ニ任セタレ
趣ナリ禪ノ宗ニ日ノ如ク人ハ語録
ノ意シカリニ文字ヲ用ユ

僧大意
雪笠雪 僧雪ノカサ雪ノ裾ハ 緇衣

墨涿ノ衣 錫杖 僧所持ノ 叢林 僧ノ

大室 方丈ノ室ナリ 一鉢生涯 僧ノ

ヲ出シハ一鉢ヲ生涯 色不染 色トイハ

トナシニ居トナリ 雲生履 山嶽

モ心ニ染著セテソ 心與水閑 一心ハ止

カ履ヲ生スルソ 水ノ閑ニ

ナミナキ 飄聲遠 聲ノ音カ空ニハ遊
ヤウナリ

寺客 此ヲ好ミシノ僧ヲ 一枝藤 僧ノ持ス

一塵不染 少モノ下物ニ心 總成空 僧ノ

万法ハ空 竹影茶煙 僧家ノ 佛前燈

上言外意 僧ノ悟意ハ言外 語世中

煙霞 僧ハ洒落ナシハ詩ヲ作り或

影中ノ身 此身ハ本縁 枕前夢 万

ハ皆枕 入室松風 僧寺ノ 孤雲野

前ノ夢 鶴 僧ノ生涯ニ

禪僧 悟空 万法是レ空ナリ

了性 此レ自性ヲサトヒ 閑觀水月 心

ニスニ 默坐煙霞 煙霞ノ中ニ默坐ニ

スリ

黙坐ハ少 皆障礙 一念ニ修スル知アリハ
カフルヘシ 少障礙ノ更ヲ修
スレハ事障礙トハ悟リ 元不染一真ハ
得タルニ理アリバ理障トナリ 自如ト
シニ元不染著ハ 本来空同 諸念寂
初ヨリ無キモノトシ 一人志モシ 性自圓 元不染 只此心
コラコリ 只此心ヨリ 入定心 坐禪ノ心上ニ佛カ
生シタリ 現前スル
藏朕跡 僧家ノ妙用ハ朕漠 萬事
隨縁 境界ヲ縁ニ任せ
行脚僧 無數名山 千山万水
杖屨 杖錫 四ノ往來 芒鞋竹
杖 草ノワラニツ 臥煙霞 煙霞山野
竹ノツヘリ 臥煙霞 二臥スリ
野水寒林 旅行ノ路 出塵氣
世塵ヲ出タル 幽荒州 路風景 臥五湖雲
上意ヲ云フ

湖水ノ雲ニモ 無所着 何レノ所ニモ着
サタゾ 臥スリ 高山ヲスグシハ 雲カ
行リ 雲生 衲僧ノ衲衣ニ生スル 雲上
衲衣 日上
熟語 苔苔 鮮山門古 杜甫
丹青野殿空

此夕山門ノ古リタルハ苔苔鮮ニテ見ヘタリ
野殿ノ空キハ丹青ノ落タルヨリ見ユシ
蟬聲集古寺

鳥影度寒塘
此夕ハ蟬聲カハ山寺ニ集ルト云林木ニ
集ルト云ハ古中ノ古ナリ 古寺ト云ニ感
情アリナリ 集ノ字コトサラ面白キリ
鳥ノ影カ水ヲ渡ルト云ハセシキリ寒
塘ト云ナレハ寒ノ字ヨリ 鳥影ノ寂寥
名知アリテ面白キナリ 意ヲ付テ意味
スル
言下忘言一時了 白居易

夢中説夢兩重虚

此のハ兩トモニ一字モ無用ノ字ナレ
道理ヲ説ハ如此ナルハ道ヲ聞テ悟
レバ其ノ聞タレ言ヲ皆忘レテ一時ニ
了レテ何事モナキソ言ニ著スレハ悟
ニテハナキリ今ヲ日ノ説ハ夢中ニ夢ヲ
説ト同キリサレハ夢モ説モナキリ二
重比白虚妄ナルリ

入遠公社

高僧傳ニ晋惠遠虎峯ノ
清淨ニシテ心ヲ息スルニ足ル
ヲ見テ始テ龍泉ノ精舎ニ住ス相伊
山東ニ房殿ヲ立テ遠公ヲ居ル絶塵
清勝ノ實不期シテ至ル彭城ノ劉遺
民豫章ノ雷次宗廬州ノ周續之新
蔡畢穎之南陽宗炳等凡ソ
百有二十三人遠ニ依テ遊止ス
不過虎
溪廬山記ニ遠法師廬阜ニ居テ三
十四年ノ間影山ヲ不出跡俗ニ不
入客ヲ送ルニ虎溪ヲスゲルヤ昔陶
元亮陸修靜ノ送テ共ニ語リテオホ
ヘズレテ虎溪ヲ過テ三人共ニ大笑
其後世ニ傳テニ三笑ノ圖ヲ畫ケリ

招入白蓮社

高僧傳ニ遠法師白
蓮社ヲ結テ書ツツ
カワシ淵明ヲ招テ淵明カ曰弟子
ハ性酒ツ嗜ム許シタハ往ニト云遠公
コレヲ允ス淵明ユキケレ酒ナカリケ
レ淵明ア肩ヲヒツメテ歸リケルトアリ
飛錫ハ高僧傳ニ神僧アリテ錫ヲト
足白于面ハ高僧傳ニ釋ノ曇如足
面ヨリモ白シスアリニシテ

泥土ノ中ヲ行トモ

泥土ニケル
石點頭

傳燈錄ニ僧アリ

經ヲ虎丘寺ニ講ス
人是ヲ信セズ石ヲアツメテ經ヲ説
至理ヲ談スルニ石皆點頭ストアリ

高僧生公經ヲ虎丘寺

類書ニ梁ノ
破竈和尚

潛確類書ニ岳山ノ廟

ニツノ竈也アリ
其夕靈アリ歟凡者多ト墮和尚杖ヲ
以テ敲テ三下ス咄只是泥土合成
聖從何来トアリケレハ竈乃ヤブニシラ
クアリテ一人ノ青衣人來リテ師ヲ
拜シテ云我ハ竈神ナリ久シク業報

其夕靈アリ

歟凡者多ト墮和尚杖ヲ

以テ敲テ三下ス

咄只是泥土合成

聖從何来トアリ

ケレハ竈乃ヤブニシラ

クアリテ一人ノ

青衣人來リテ師ヲ

拜シテ云我ハ

竈神ナリ久シク業報

シ受タリ今無生ノ説ヲ共承リテ此知
ヲ脱スルコト得タリ来テ謝テ致ス
ト云是ヨリ破露ト能通玄術類聚
和尙ト號ストアリ能通玄術類聚
ニ仙圖澄天竺ノ人ナリ妙ニ玄術ヲ通ス
石勒其名ヲ聞テ名ニ其術ヲ試シ
タリ澄鉢ニ水ヲモリ香ヲ焼テ呪ヒ
ケレハ須臾ニ鉢ノ中ヨリ青蓮花生シ
タリト一鳩自雲云唐嚴院ノ咸澤禪
嚴ノ家凡曰一場ノ師僧問如何是廣
自雲三間茅屋無業
云看日他ノ古徳道人得意ノ後如
苾石室ニ折脚鑊子ニ飯ヲ煮テ喫スル
一二三是難暮鐘守清禪師僧
年トアリ意ヲ問師云心ヲ擾々
晨雞暮鐘トアリ
〇一〇詩

謁真諦寺禪師 杜甫

蘭若山高處煙霞障幾重凍泉
依細石晴雪落長松問法看詩安

觀身向酒慵未能割妻子卜宅

近前峰

此詩一ニノケル言ハ公真諦寺ニ来リ
禪師ニ謁スレハ寺ハ高山ニ烟霞ノ幾
重ノ上ニアリ三四ノ句凍泉ハ細石
ノ間ヲ流レ天晴シテハ雪カ長松ノ
上ヨリ落ルソ五六ノ句ハ禪師ニ法
ヲ問フニハ今我ヲ詩ヲ吟スルニ畢
ニ竟志想ナルコトナリト思フトナリ
七八ノ句ハ心底如此ニアリ我今妻
子ヲ棄割テ此前峰ヘ宅ヲ卜シ
テ來ラヌニゾリ真心ニヨク禪ノ凡
味ハ會シタルトナリ

謝南平鍾王詩 僧耿章

摧殘枯木倚寒林幾度逢春不
變心樵客見之猶不採野人何處
苦搜尋

此詩ハ僧寂年十九ニテ南平鍾王詩ヲ入テ
修行ス南平鍾王禮ヲ畫シテ招トモ

不至詩ヲ作りテ使者ニ持せしめり
三ノ夕言ハ此身ハ摧殘トクダケソコ
子タハ枯木ナレハ寒林ノ夕ヨリトシテ
倚リテ居ルノ幾度カ春ニ逢ヒ
枝葉モサカヘズシニ居ルナリ三四
ノ夕ハ如此ナレ枯木ハアサニ夫樵客
キコリモ目ニカケズニ採ルナリ
ホドノ大匠師カ何モ此摧殘ノ
枯木ヲ目カケテ尋サグゾトナリ我
躬ヲ枯木ニ比シ鐘王ヲ郢人ニ比シ夕
リ郢人ノ故友ハ前ノ子業ニ見
ヘタリ 竺二僊 僧貫休
夜雨山艸濕爽籟雜枯木間吟
竺二僊 偈清絕過於玉

一ニ夕言ハ夜雨ニ山艸カ濕ク清凡
カ枯木ノ間ニ吹リ三四ノ夕ハ此境ニ
到リ竺二僊カ偈ヲ吟スレハ清絶ハ
玉ヨリ過リ玲瓏ト高潔ナリト云意

○行旅振論

行旅ハ國ヲ去リ郷ヲ離シテ千百里
ヲ行ナレハ家ヲ思ヒ親戚朋友ヲ憶フ

切ナル情ヲ述ベ行路峻隘ニシテ山ヲ
踰水ヲ涉リ霜露ニカタレ凡ニ櫛リ
雨ニ沐シテ安カラザル趣向ナレハ春ハ
凡塵ヲ蒙リ夏ハ炎暑ヲ苦ニ秋ハ
秋霖ニ嘆ヲ起シ冬ハ寒凍ニ道途ヲ
經ル時ハ凡雲物早ニテ作為スニ
行旅ノ作為ハ情深クハ好詩モ凡
ヘシ大意ニテ知ル

大意 萬里情 思郷淚

萬里客 影一身 妻兒兄弟ソ
ト一身バカ 天一涯ノ外ニ遠クテ天

故国情 故國ヲ思フ 關山萬里 關

越テ 雁外無書 故郷遠ケレハ鴈
郷書無雁 故郷ノ書ヲ傳フベキ雁

千里 羈愁 千里ホド遠キ 半平
客 半平ハカリモ旅 千里凡霜 千

旅ニ凡霜 故園賒 前途晚日
ニウタル、リ 征夫 道行人ニ路程
ケテ行先ハ 問 征夫 道行人ニ路程
日モシク、リ 問 征夫 道行人ニ路程
一春爲客 間旅ニラクスト
客思寂寂 旅客トナシハ思フ心モ
北凡凄 異郷人 旅ニアハ我身
猶爲客 旅ヲ止ズレテイダ
思家歩月 故郷ノ家ノツノ思フ
一夜 飄零 客 跡々ハ山ヲ越水ヲ
シカス 遊子恨 旅客ノウラミツ 一望孤
雲 雲ヲ望ムトモ故 故園花發
故園ニ北モ開ク 空塔雨 夜ノ雨カ塔
ヘシト旅ニ思ヤソ 空塔雨 夜ノ雨カ塔
眠モエセデ 霜空 飛雁 霜ノ時分ハ雁
家ヲ思フ 霜空 飛雁 霜ノ時分ハ雁

故郷ノツトツレシ 一片ノ歸心 故郷
思フ心ニ用ユルソ 一片ノ歸心 故郷
ソキト思 十八分ノ愁思 エモナキ 秋思
フ心ヲ云フ 十八分ノ愁思 エモナキ 秋思
燈火長亭 長亭ハ旅宿ナリ 旅宿ニ
タル 楚樹昏々 楚國ノ樹カ昏々
ナリ 楚樹昏々 楚國ノ樹カ昏々
トモ竹トモ遠キ 漂泊南州 南国ニタ
トモ可用ナリ 漂泊南州 南国ニタ
ニ旅ヲ 江山異 故郷シハナレシハ
スルソ 江山異 故郷シハナレシハ
カワリ 寄來書 故郷ヨリ來ル 昔者
ツリ 寄來書 故郷ヨリ來ル 昔者
雨茅屋ニトナリテ 銷魂別 魂井モキ
雨ニアヒタルナリ 銷魂別 魂井モキ
カナシキ 路長在 飯路カ 萍浮水萍
別トシキ 路長在 飯路カ 萍浮水萍
サタフニ似タレ 蓬轉 枯タレ蓬ノ心
旅人ナリト云フ 蓬轉 枯タレ蓬ノ心
夕 浮萍轉蓬 如此ニモ
熟語 鷗鳥牽絲風 杜甫

驪龍濯錦絢

此夕ハ鷗鳥ヲミレハ絲ヲカケテハ驪リ驪
龍ハ錦シアラヒニ絢ニ居ルハ絲
ハ羽ヲ云ナリ錦ハ龍鱗ナリ絲ト錦

己謂殷家廓
突兀猶起人

此夕ハ山中ヲ旅行スレハ山中高ク天ノ
窟多ク廓トロク遠キニ殷々トソビタル
ガ大山ナレバ路ヲ行ドモ山ガ人ニツイテ
歩スルヤウニ見ユルホドニ猶人ヲ越ト云之
旅行ノ山中ナラバハ云ベクラス

桂嶺瘴來雲似墨
洞庭春盡水如天

此夕ハ桂嶺ハ瘴氣多所ナレハ瘴雲カ
來シハ墨ノ如クニ見ユルトナリ瘴ノ字
雲ノ字一音ニ見ルニ洞庭ニ春カ盡
レハ春水カ天ノ如ナリ春ノ字水ノ字一
意ナリ瘴雲黒ク春水ハ緑リト云
故云又

酒掃輒躬
東漢ノ郭林宗逆旅ニ宿スレ
ハ躬ニツカラ塵埃ヲ洒掃

テ去レ後ニ宿ス人來リ見テ必郭有

道カ昨上夜コニ宿シタルラント云タソ
思歸不念
漢書ニ韓王信カ柴將軍ニ報
云テ曰僕カ歸ヲ思フコト公瘴

視人ノ起シテ不念者ノ躡躡
史記ニ虞卿履ヲフニ筮ヲ
張衡

顧燕
山堂肆考ニ東漢ノ張衡洛陽ニ
旅寓ニ生計カ乏カリテハ

家ニ飯リタリ思シ梁ノ燕ヲカヘリテ
秋凡至シリ久シク留カシト云ヒナリ

萍浮
同上東漢ノ鄭康成梗泛
唐詩ニ

栖惶勞梗泛博斷倦蓬飄トナリ
穎士
旅行処サタメヌヲ梗泛ト云ナリ

賦
山堂肆考ニ唐ノ蕭穎士東陽ニ
賦アリテ歸ノ思ヘ飯ルコト不得

白鷗ノ賦ヲ作ル其意ハ己カ歸ヲ得
ガハ白鷗ノ龍ニ若シミニ出ルコト不
得カコト
夜宿古塚
晉陸雲本傳陸雲
トトト
人ノ家ニ宿セント思ケレ途スガウ夜
暗クニ行ベキトモヘ子バ徘徊スル中ニ

遙ニ灯ノ影ニユラ行テミレハ一ツノ家アリ
リ其ノ処ニ宿シカリケレハ主人少年ニテ
只人トモ見ヘス物語ニテ老子ノ道ヲ談
ビケレハ少年辞モ意致モ深遠ニテ陸
雲モ老子ノ趣キヲ得タリ曉ニナリテ
飯リ故人ノ処ヘユキテ昨夜ハ路クラ
サニ如此ナル処ニ宿ニタリト始末ヲ語リ
ケレバ故人ノ言ノ其邊ニハ人ト家ナシトテ
又尋ミシレハ家ハナクテ王弼カ墓ナリ
ソレヨリ陸雲モ玄学スニミタリ王弼ハ
老子ノ道ニクワシキ人ナリ
○よ詩

早行

賈島

早起赴前程、鄰鷄尚未鳴、主人燈下、
別羸馬、月中行、踏石新霜滑、穿
林宿鳥驚、遠山鐘動後、曙色漸、
分明

分明

此詩一二ノ夕トシテ旅宿ソ早ク起テハヤ
行サキノ早程ヘ赴クカ早天ニテ鄰鷄

ハケニダ不鳴リ三四ノ夕主人ニヤ御出立
アハト灯ノ下ニテ別ルリツカレタル馬
ニナリテ月影ニ行リ五六ノ夕ハ石ヲ
踏テ新ダニ置タル霜カナラカニスベリ
林ヲウガツテ行ハ宿鳥ヲ驚スリセ
ハノ夕遠山ノ寺々ノ鐘カ動テ後ニマ
ウク曙ボノ色カ分明ニテ物ノアヤ
モニユトナリ此詩一夕トシテ皆早行ノ
意ナリ看ル者注意ヲ付讀メシ
宿濟州西門外旅館 晁端友
寒林殘日欲棲鳥、壁裡青燈乍有
無、小雨暗、人假寐、臥聽疲馬、
殘蕩

此詩一二ノ夕ハ旅行日暮ニナリテ寒
林ニ西日ノ殘リタル時ハ飯鳥モスニト
スルニ旅館ニ入タリ館中ハ寂寞トシテ
壁裏ニカスカニ青燈カアレハ有ルカ無キ
カニ見ユルリ三四暮テ小雨フリテ暗々
トアハレニ聞ユニ友トスル者モナクテカリ
子ヲシテ耳ニ聽モトテハ終日ノ路ニ
テ疲レタル馬カ殘リタルニクサカムソ
トノミソトナリ極ニアハレナル詩ナリ
旅行ノ詩ニハ如此ナル詩ヲ見習フベシ

秋雨

張復之

簾幕瀟々竹院深客懷孤寂伴燈
吟無端一夜空塔雨滴破思鄉萬里
心

此詩一二ノ夕旅館ニテ簾幕モ寂寥
瀟々トサビシク竹院モオクフカキリ
客ノ懷モ孤身ナレハサミシク一燈ヲ
伴フハカリソ三四ノ夕此一、ニテモ旅思
ハ堪カタクニ無端トハアジキナレトモ
アジキナクモ一夜空塔ニ雨ノ声ヲ聞
ク我カ故郷ヲ思フ万里ノ心ヲ滴
破スルトナリ滴破トハボクト落ル
声ニ終夜故郷ヲ思フ心ヲ滴破セ
レテ眠ラヌトナリ

茶古詩

答荊州王克道烹茶

黃庭堅

香從雲外豎龍上發味自白石源中
生爲公喚覺荊州睡可待南柯一
夢成

此詩又豎龍ハ鼻ナリ白石源ハ古
二ノ夕ハ茶ノ吸レハ香ハ鼻へ透
リテ風味ハ舌中ニ生スルノ三四ノ夕
今君荊州ニアリテ富貴ニ志ヲ
得タルカ是又人生ノ一夢ナリ心
地カ清州ニタクハ荊州ノ夢ニテ暮
スヘキ別今茶ヲ好ミタクハ心頭ヲ洗
ヒ清ニテ荊州ノ夢ヲサスヘキナリ
此茶ヲ飲テ南柯一夢ノ成就ニテ
覺ルシヲ可待トナリ成中云ハサムト
云上意リ此ハ如此ノ処ニ意ヲ付ヘシ
帳中香ノ抄モ此夕ノ説マリアレキリ

又

龍焙東凡魚眼湯筒中即是白雲
鄉更煎雙井茶鷹爪始耐落
花春日長

此詩一二ノ夕ハ龍焙ハ天子ナトヘ君ニ上
リル無上ノ茶リ龍焙ノ東凡ノ魚
眼湯ニミテ飲タル意ハ凡間ノ事ニテ
中ニ居ル意カアルリ是富貴ノ極
ナレハ眠ノサナタルニアラス三四ノ夕ハ
今別ニ更ニ武夷井鷹爪ノ芽ヲ煎
シテ喫シテ酒落ノ境界ニアラハ
夢ヲコラズ始ニ北落花ノ春ノ永日
ニモ能耐テ懶眠セシトナリ是モ古
抄ノ義アリシキリ

○古詩

新裂衣齊紈素皎潔如霜雪裁為

扇

班婕妤

合歡扇團圓似明月出入君懷袖
動搖微風發常恐秋節至涼風
奪炎熱棄捐篋笥中思情中
道絕

此詩一二ヨリ五六ノ句ニテハ扇ヲ
造ルテノノヘタリ新ニ齊紈ノ素
ヲ裂タシハイサギヨリ霜雪ノ如ク
ノ裁シテ合歡ノ扇ニ成テリ團
々トシテ明月ノ如クハ君モ愛ニテ
懷袖ニ出入セシメタラサレハ扇モ威
勢アリテ微風ヲ起シ暑ヲ払フテ
君ノ喜ハシメタリ七八ヨリ末ハ扇ノ
情ナリ扇カ心ニ思フハ恐クハ秋ニテ
リテ涼風カ吹タラハ炎熱ヲ奪フテ
扇モ無用ノ物トナリ篋中ニステラ
レテ君ノ恩愛モ中ヨリ絶ベキト常
ニ恐ルトナリ

紈扇

張芸叟

紙扇本招風曾將熱時用秋來掛壁
上却被凡吹動

此詩一二ノ句ハ紙扇ハ本ト凡ヲ招ク物
ナレ熱時ニ用ヒトスルヲ三四ハ秋ニナシ
ハ涼月ヲコリ扇ハ用ユルヲナシ壁ニ掛
テアレルハ却テ凡ニ吹動カサレニアリ
トナリ

○紙古詩

寄賤

干革

七八葉落秋水外兩三箇雁夕陽
邊筆頭到處渾無礙掃破寒潭一
幅烟

此詩一二ノ句此ノ命ヲ寄スル意ハ足下能
畫カリ人ナレホドニ七八葉ノ落サテ筆ヲ秋
水ニ在ラシメ兩三箇ノ雁雁ノ夕陽
ヲ弄ビニ筆ノ邊ニ居ルヲ圖セラシ
ヨトナリ三四ノ句ハ能畫ナレハ筆
頭ノ到ル処ニ礙モアレンコト此氏中清淨

三ノ寒潭ノ如クニ見ユルノ一幅寒潭ノ
烟ヲ掃破シクヘトナリ紙ノ詩題詠以
シ杜甫麥光紙ノ麥光鋪几淨無
瑕韓浦カ詩ニ十樣鸞箋出蒼州
何志熙カ詩ニ雪藤尤異産應不數
花箋東坡カ詩ニ刻藤開玉版
トナリ

和谷錢穆父詠程々毛筆

○筆古詩

黃山谷

愛酒醉魂在能言機事疎平生幾
兩履身後五車書物色看王會
勳勞在石渠拔毛能濟世端為

謝楊朱

此詩一二ノ句ハ程々ハ酒ヲ愛シテ
醉ヘドモ魂魄アリソ猶我ヲ取ラントテ
酒ヲ設ケル人ノ姓名ヲ言ヒテアサケル
リ如此ニ能ク言ヘトモ知ナキ故ニ機事
カ疎カナリ機事トハ外ヘニセズシテ中
ニククミアルヲ云程々ハ此ノ巧ニ疎カ

ソ三四ノクハ程々ノ毛ヲ取メテ筆
ニ作ル數多ク筆ニ數百ノ程ヲ殺ス
ソ程ヲ取ベキト人ノソナヘル兩履
ソ平生ニ幾ク西履カ程マカ着タルナラ
ン今ノ此事ハ身後ノ毛ナシハ五車ノ
書ソ此筆ニ書出スソ五六ノクハ物
ク色トハ其物ノ色形ヲ云ソ程々ノ色
タルハ未見ホドニ其物色ヲ王會ノ圖
ニ載タルニ知タリ程々ノ身ヲ失
シテ筆トナリテノ動然ハ石ノ滄
ニ書キ記シタル書ニテ知タリ七八ノク
ハ程々毛ヲ拔多ク少ノ書ソ記スル筆ハ
ナリニ濟世ノ功多ク是ヲ以テ見ル
楊朱リ一毛ヲ拔テ天下ヲ利スルア
リトモナスモ心ト云ケルガ程々ノ為ニ
謝シテ楊朱ニ為我ト云ツ字ハ不問心
ト云ベシトナリ

○墨詩 藏墨訣

李廷珪

贈尔烏玉珠 泉清硯須潔 避暑縣
苜蓿囊 臨凡度梅天

此意ハ烏玉珠ハ墨ナリ 墨ニ泉濁リ
硯不ハ良墨光ハ發セヌソ 泉清ク硯潔

シ用ユベシ 暑ノ時ハ苜蓿囊ニモリソ凡
ニアワセテ梅雨ノ天ソ度ルハ少ノ濕
ニモ逢メカラズトナリ 李詩ニ上墨
碧松烟 東陵丹 沙末 蘭麝 凝珍 墨
精光乃堪發 トアリ又延州ノ石烟
トアリ 松烟ノ色ニ勝レリ唐人ノ詩ニ
二郎山下ノ雪 紛々石烟多 干洛陽塵
トアリ 石油トナリ 石ノ油ナリ 是ヲ燒テ
油ヲ去テ墨ニ造ルナリ

○硯ノ一〇詩

求硯

楊時可

尖頭奴有五兄 第十八公生 四客御過
我書齋無一事 但應終日待陶泓
此詩一二ノク 尖頭奴ハ筆ナリ 十八公墨
ナリ 今尖頭奴五管アリ 墨ハ四九アル
三四ハ此筆ト墨トガ我書齋ハ過リ来
タレ 硯ナケレハ一事ヲ成ラシ 但終日
陶泓カ来ルカト待バカリソト云 意ソ陶
泓ハ硯ヲ云リ

石硯行

杜少陵

平公今詩伯秀發五所羨奉使三
峽中長嘯得石硯巨璞禹鑿餘異
狀君獨見其滑乃波濤其光或雷
電聯坳各畫墨多水遞隱見揮酒
容數人十手可對面比公頭上冠正
質未為賤當公賦佳句況得終清
寧公舍起艸姿不遠明光殿致
于丹青地知汝隨顧盼

此詩前ノ四句言ハ平公ハ當人ノ詩伯ニ
其ノ秀發ナルハ杜公初モウラヤムソ藝
州ノ三峽ノ衆ヲ叛逆セシヲ天子ノ使
ヲ奉ジテ靖ニ往シカ何夏ナクユカ長
嘯シテ治テ其ノ石硯ニテ得テ五
六七八ノ句ハ此巨璞ノ石硯ハ禹ノ九河ヲ
數金シ餘石ニシテ異狀ハ君獨リ見知
取り販リタルナルメシ其滑ナルハ此硯ノ波

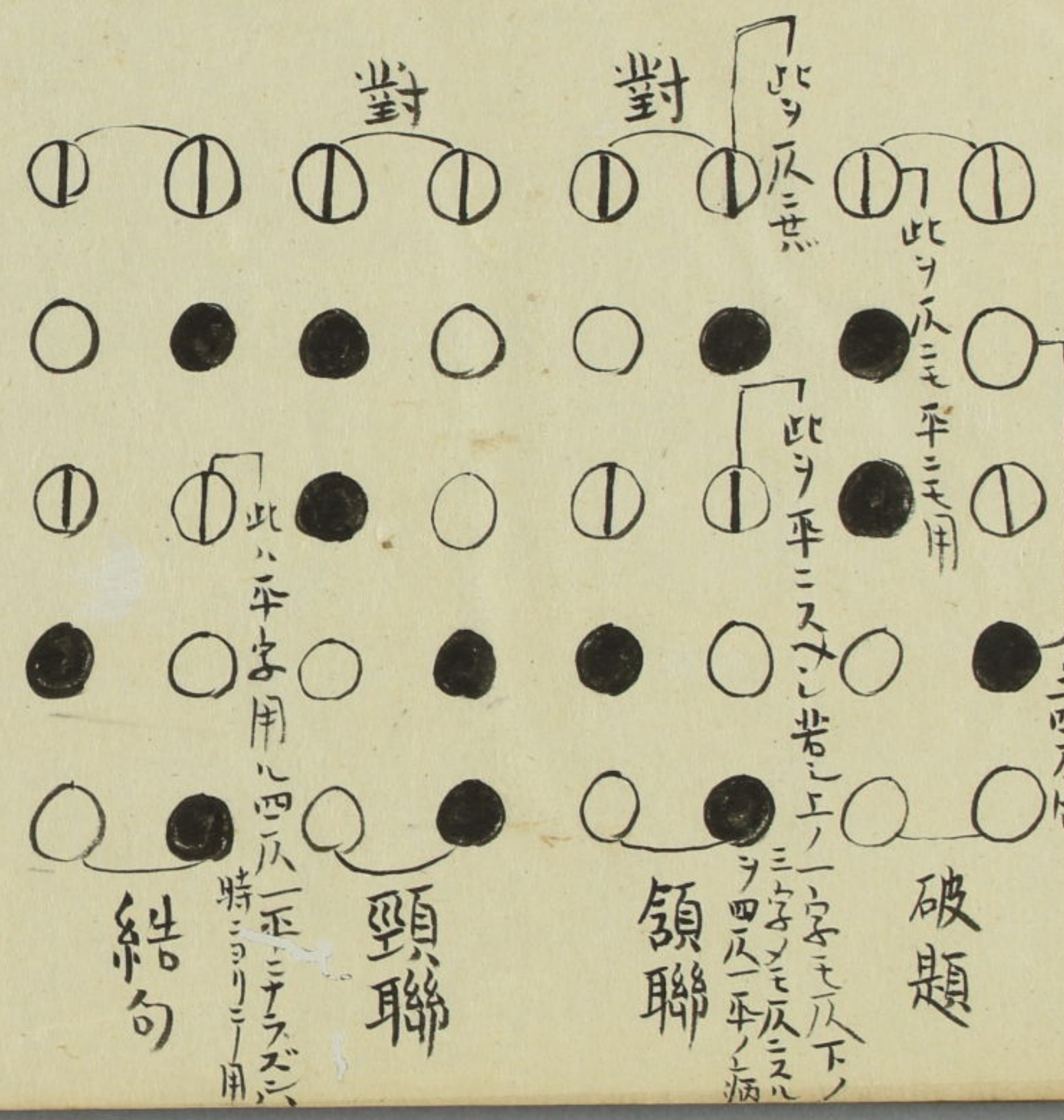
濤ニテ自然ニ水出其光明ハ雷電ノ
如シ九十一ニハ聯坳トテ墨水ノ多ク
兩池アリテ能墨ヲ發ス水多アリテ
兩池ニタガヒ隱見スルノ石硯大ナル書
手數人ヲ連子テモセシクナシ十年カ
面ヲ對シ書ベキリナシヨリ十六ニ至リ
テ此石硯ハ平公頭上ノ冠ニ比スル其
硯ノ正質賤シカラス公ノ佳句ヲ賦ス
ル時ニ當リハ是レ天子ヨリ寧公ヲ賜
時ナルヘシ其時此硯モ公ニ從フメシ公ハ
ト大書筆ノ才ヲ含タル天姿ナレハ必明
光殿ニ起艸スベシ然ラハ此硯モ丹青
ノ地ニ至リテ天子ノ平公ヲ顧盼シ
クニフニ共ニ激臨見ニ遇フメシトナリ

右、文房四友故友 紙筆 硯

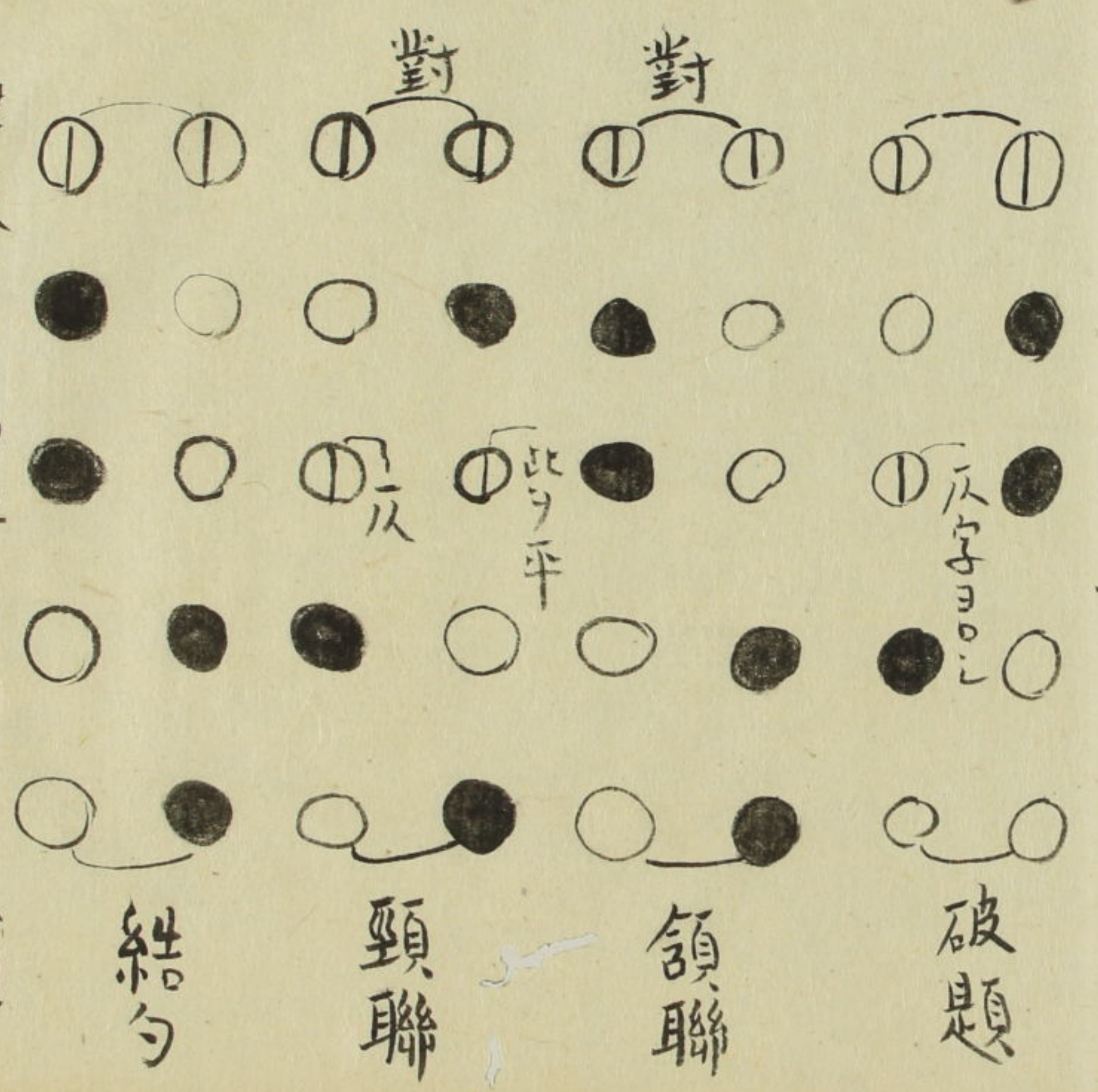
右 詩林良材ナリ

○五言七言律詩格式

△五言律詩平起式



△同仄起格

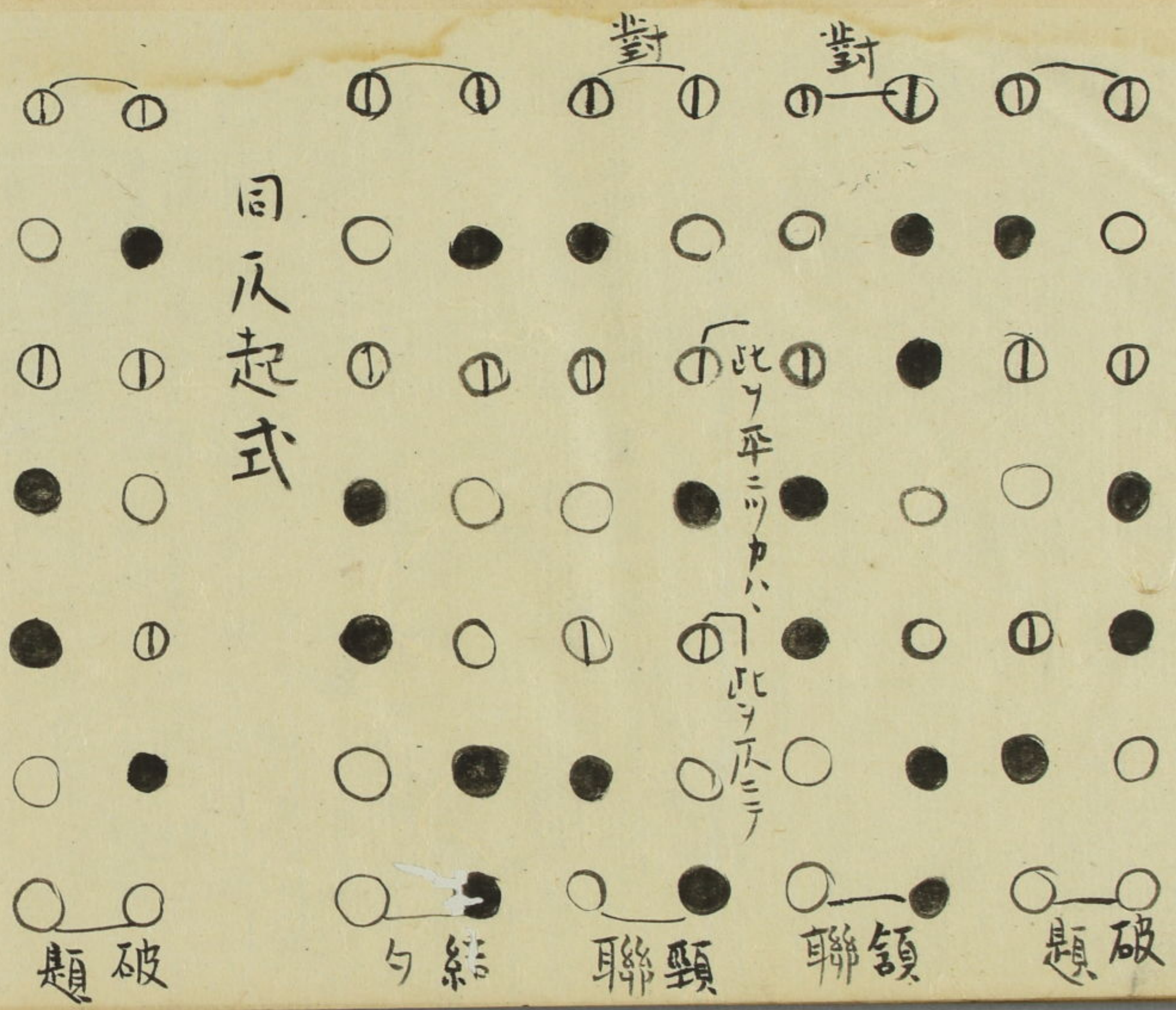


五言律袁石公曰起リノニ夕ヲ破題トス
 多クノ景ニ對シテ興起シ或ハ此起シ或ハ
 起テ引リ起シ或ハ題ニ就テ起ス狂凡
 ノ浪ヲ捲テ勢ニ天ヲ濶イラント破題ト
 カ如クシラント要ス△次ニ夕ハ領聯トト
 エシ承テ下ニ送ルヲ或ハ意ヲ寫シ或ハ
 友ヲ書シ或ハ友ヲ用テ引證ス此聯
 破題ニ接セントコトヲ要ス驪龍ノ珠ヲ抱

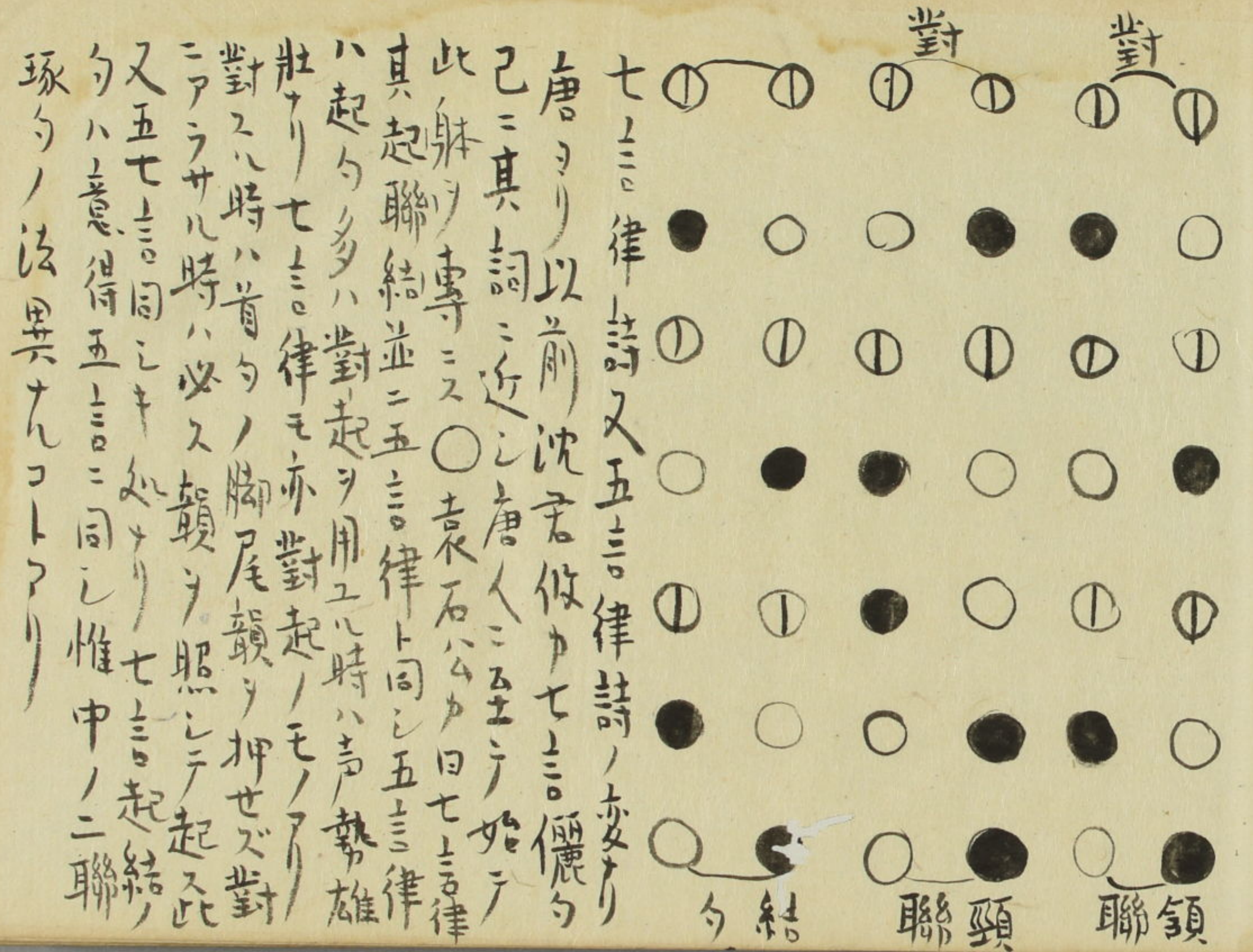
テ脱セサレカ如シ△又次ノニクシ頸聯
トス下ヲ轉シテ實ニ入ルヲ云或ハ景ヲウ
ツシ或ハ意ヲウツシ或ハ反ヲ用テ引証
ス領聯ト相應ニ相比ス疾雷ノ山ヲ破ル
カ如シ觀ル者駭愕ス或ハ就テ結句ヲ生
ス△末ノニクシ結句トス或ハ題ニ就
テ結句或ハ一步シ推開シ或ハ前聯
ノ意ヲ散場トナス剡溪ノ棹ノ自ラキ
放テ散場トナス剡溪ノ棹ノ自ラキ
自ラ同ルカ如シ詩盡テ味ニ餘リアリ
○五言排律ノ作ハ其源ト顏謝ノ諸人
ニ起レリ古詩ノ變テリ此律唐朝士
ヲ試ニ用ユトナリ對偶平仄律詩ト同
起止照應長篇古凡ト同シ畢竟長
篇ノ律詩ト心得シ多クハ是五言ニ
十句以上百句ニ至ル又百句以上三百
其間十二句十四句十六句二十句二十
八句四十句ノモノアリ發句落句ヲ除
ノ外並ニ對偶用ユナリ又五言ノ古
詩ハ平仄ニ拘ハラズ對偶ノ定メス
○哥學集ニ曰長篇篇ノ百詩ハ平仄ヲ
カコワス七言ニシテ如ク終ニ對
句ニシテ百句ニシテ五句ニモツクル
タハ韻字第二句メヨリフミ出シテ上ノク

フニズ下ノ對句ノミニフム古又常ノ七言
律詩ノ第一ニクシヨリ以後ノ如クカ
コニ韻ヲフニシテ百句ニ至ル終ル七
言絶句五言絶句ニモ古詩ノ格ニ作ル
ナリ俗ニ是ヲ仄韻ノ詩ト云ナリ
此時ハ平仄ノ法シカハズタバ一東
ノ韻ニテモ二冬ノ韻ニテモ上聲
ナリトモ去聲ナリトモ仄ノ韻字ヲ
キクメテ下モフミテ第一ニクシ常
ニ仄ヲフニテ韻字ヲ用ヒル如ク反
ニ平字ヲフムハレタトハ東ノ韻ノ
仄字ヲフニバ三句メノ下モニ又東ノ韻
ノ平字ヲ用ヒル如ク作ルノ平字ヲフ
ムハレシ又常ニ作ルナリ裁字題
ナド探リテ仄字ニトリアタルキハ
是非トモ仄韻ニシテ古詩ノ凡ニ
作ラ子バナラヌ
排律ノ作リヤウ大ハ五言ノ律ノ法
ニシタガヒテ首句ヲフミテトシ三ニテ
此モ始メヨリ終リニクシ對ニ
作リテ十ニクカ十六句カニ結ビタルニ
平仄ノ法五言ノ詩ノ如クナルヘシ加様
ノ躰モ辨ヘテ時ニヨリテ此格ニ入
テ作ルヘシ又新クニ面白キ者ナリ

七言律平起式



同仄起式



七言律詩又五言律詩ノ亦アリ
唐ヨリ以前沈君攸カ七言儷句
己ニ其詞ニ近シ唐人ニ至テ始テ
此軀ヲ專ニス○袁石公カ曰七言律
其起聯結並ニ五言律ト同シ五言律
ハ起句多クハ對起ヲ用ユル時ハ声勢雄
壯アリ七言律モ亦對起ノモノアリ
對スル時ハ首句ノ脚尾韻ヲ押セズ對
ニアラサル時ハ必ス韻ヲ照シテ起ス此
又五七言同シキ如ク七言起結ノ
句ハ意得五言ニ同シ惟中ノ二聯
琢句ノ法異ナルコトアリ

就句對ト云アリ △揚花細逐桃花
 落 黃鳥時兼白鳥飛 △白狐眺梁
 黃狐立 婦女行 泣夫走藏ト云カ如シ
 白狐黃狐ニ對シ行泣走藏ニ對ス一
 ノ中自相對スルナリ
 折夕對ト云アリ 上三字下四字ノモ
 △鳳凰樂奏 鈞夫曲 鳥鵲橋通織
 女河 △靜愛竹時來 野寺獨尋春
 偶過溪橋ト云カ如シ又上四字下三字
 天遠路如絲ト云カ如シ一折夕兩句
 トナシテ讀ベキナリ
 上應下呼ト云アリ △素練抹林
 雲氣薄 明珠穿柳 露華新
 海浪浴紅朝 出日樹林堆碧晚生
 烟ト云カ如シ是し下ノ三字上ノ四字
 解クモノナリ △林花著雨 臘脂落
 水行牽凡 翠帶長ト云カ如キ是し
 行雲流水ト云アリ △春日鷺啼
 脩竹裏 仙家犬吠 白雲間ト云カ如
 是しナリ
 顛倒錯綜ト云アリ △紅箱啄殘鸚
 鵡粒 碧梧棲老鳳凰枝ト云カ如キ是し
 上二下五ト云アリ △水夜角聲悲

自語 中天月色好 誰看ト云カ如
 詩是ナリ 皆是ト云アリ 煉ルノ異ト云ナリ
 預ノ如此ノ句ヲ求メント作ルハ好カラ
 ガ一ナリ ○七言ノ詩 上ノ二字去テ
 五言トナルハ詩病ナリ 字聯珠ノ如ク
 截去ヘカラスト云フハ字ヲ藏シト云フ
 藏サシト云フ求ムレシ古人造ト云フ
 得趣ハ難シト云ヘリ 七言律 抑體
 ノモノアリ 岑嘉州カ詩ニ

嬌歌急官雜青絲
 銀燭金尊映翠眉
 使君地主能相送
 河尹天明坐莫辭
 春城月出人皆醉
 野戍花深馬去遲
 寄聲報爾山翁道

今日日河南異昔時

是八句皆自抑射ナリ如此ノ格ハ初
學ノ者ハ作ルベクラス
○八句皆對セサル格アリ僧皎然カ
尋陸羽ノ不遇詩ニ

移家雖帶客 野徑入桑麻

近種籬邊菊 秋來未著花

扣門無犬吠 欲去問西家

報道山中出 歸來每日斜

○偷春ノ格ト云フ一二ノ句ニテ
二對ヲ用テ三四ノ句對セサルリ
三四ノ句對シ一二ハ引ッテ對スル
是レ梅花ノ春色也シテ偷春ノ先ッ
開リカ如キル故ニ偷春ノ格ト云フ
杜甫カ詩ニ

無家對寒食 有淚如金波
所却月中桂 清香應更多

此離放紅葉 想像頻青娥

牛女漫秋思 秋期猶渡河

此格五七言トモ盛唐ノ詩多ク之
○蜂腰格ト云ハ二三ノ句對セス然レ
三四ノ句ナクハ或ハ十四字ニ一
叙上ノ二句ヲ貫キテ五六ノ句ニテ
二對ヲ用ヒ七八又對セズ是已テ斷
タル如ク復續テ蜂ノ腰ニ似タリ以
テ蜂腰ノ格ト云ヘリ杜甫放船ノ
詩ニ

送客蒼溪縣 山寒雨不開
直愁騎馬滑 故作泛舟回

青惜山峯巒 過黃瓶袖橋來

江流大自在 坐穩興悠哉

此ノ句三四ノ句馬ニ騎テ路滑ラカニ
三ノ句危ク愁ニシキ故ニ舟ヲ浮ベテ
歌ト兩句ニ一又テ叙テ起テ雨不
開ノ句ヲ貫ハヌクモナリ

○八對法

△的名對△異類對△雙聲對△連綿對△雙擬

△同文對△隔句對△疊韻

對

○的名對△送酒東南去迎琴西

北來ノ類ナリ

○異類對△風織池間樹虫穿柳

上ノ類ナリ凡ト出ト同ジカフサレモ

ノニテ對スルナリ

○雙聲對△黃槐ニ綠柳ノ對スル

ノ類ナリ黃槐ノ二字共ニ元音ナリ

○連綿對△殘河若帶初月如眉

ノ類ナリ

○雙擬對△識月眉欺月論花頰

勝化ノ類ナリ

○同文對△情新因意得意得逐

情新ノ類ナリ

○脚句對△一夕間シ隔ニ對スル

相思復相思夜々泣衣空歡又

空歡朝々君未飯ノ類ナリ此格ヲ

扇對トモ云ヘリ

○疊韻對△彷徨ニ放曠シ對ス

ル類ナリ彷徨共ニ陽唐韻ノ字ニ

放曠ノ字モ同ク漾韻ノ字ナリ

同韻ノ字ニ同韻ノ字ニテ對スル云

○六對法

△正名對△同類對△連珠對

△雙聲對△疊韻對△雙擬

對

○正名對△天地ニ日月ノ對スル類ニ

○同類對△花葉ニ草芽ヲ對スル類

○連珠對△蕭々寂々ノソドリミテ

對スル類ナリ△雙聲對△疊韻

對△對トモニ前ニ見ヘタリ

○雙擬對△春ノ樹ト云ニ秋池ト

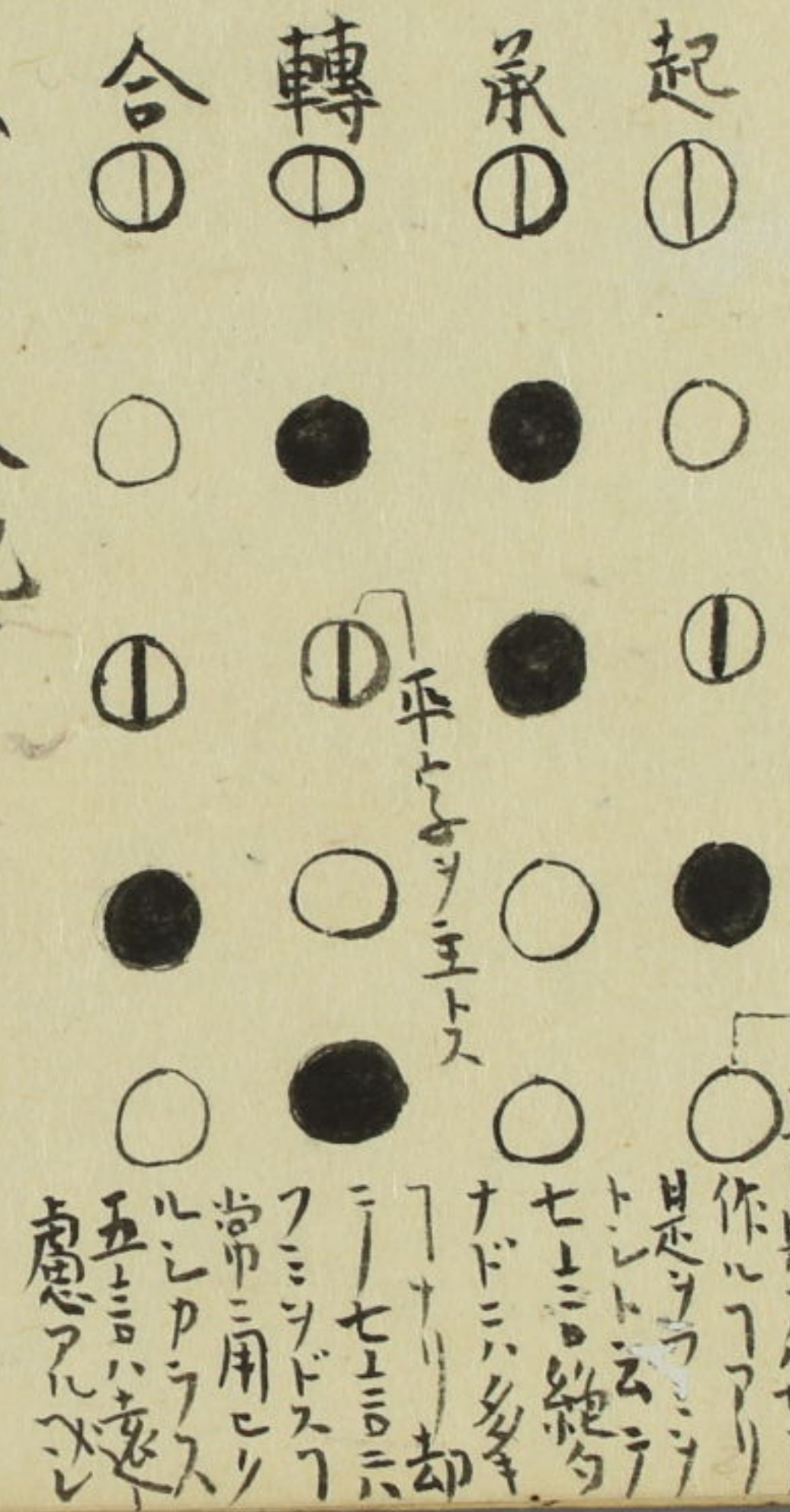
云如クナゾラヘテ對スル類ナリ

△借對ト云アリ假對トモ云ヘリ是レハ

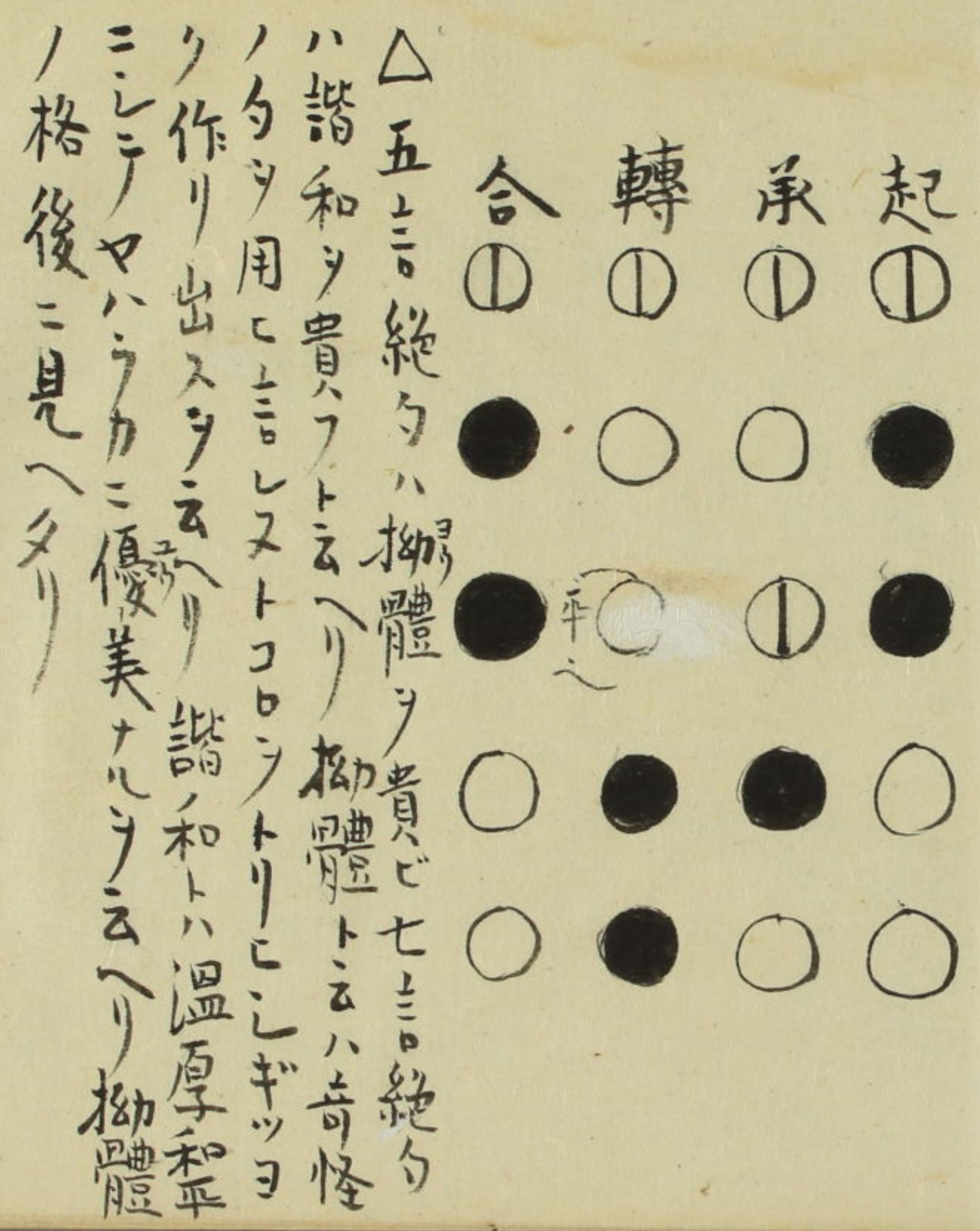
ハ的對ニアラサレトモ借リ用コテ對スル
ナリ又ハ對セザレドモ音ノ同ジキ
ヲ借リテ對スルモアリナリ杜甫カクニ
酒債尋常行處在次生七十台萊稀
ノ類ナリ又。五峰高下萬木幾
歷秋是下ハ其ノ下ト同音ナレ故ニ
借リ用ユルヲ又。殘春紅藥在
終日子規啼是紅ニ子ヲ對スルハ
子ト紫ト同音ナレ故ナリ

○ 五言七言絶句格式

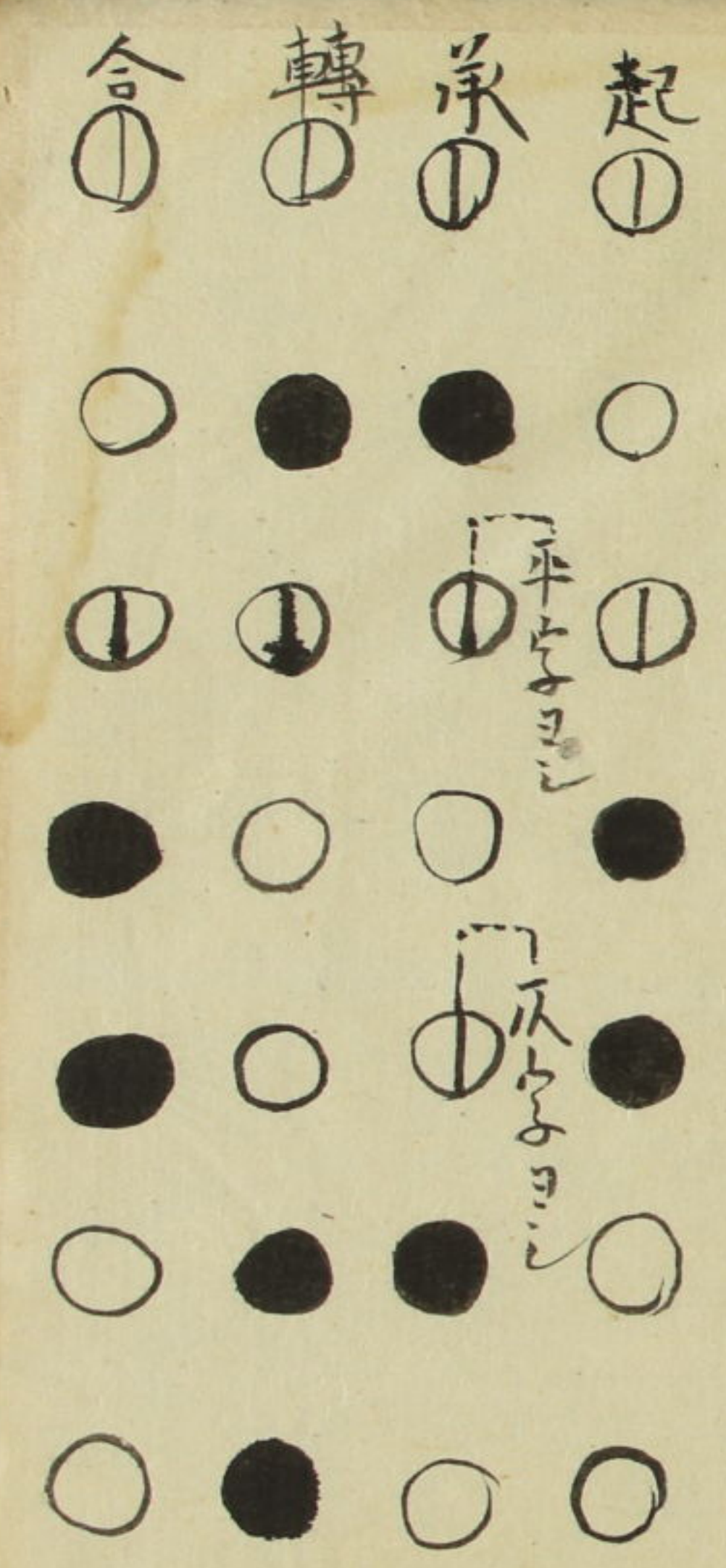
△ 五言絶句平起



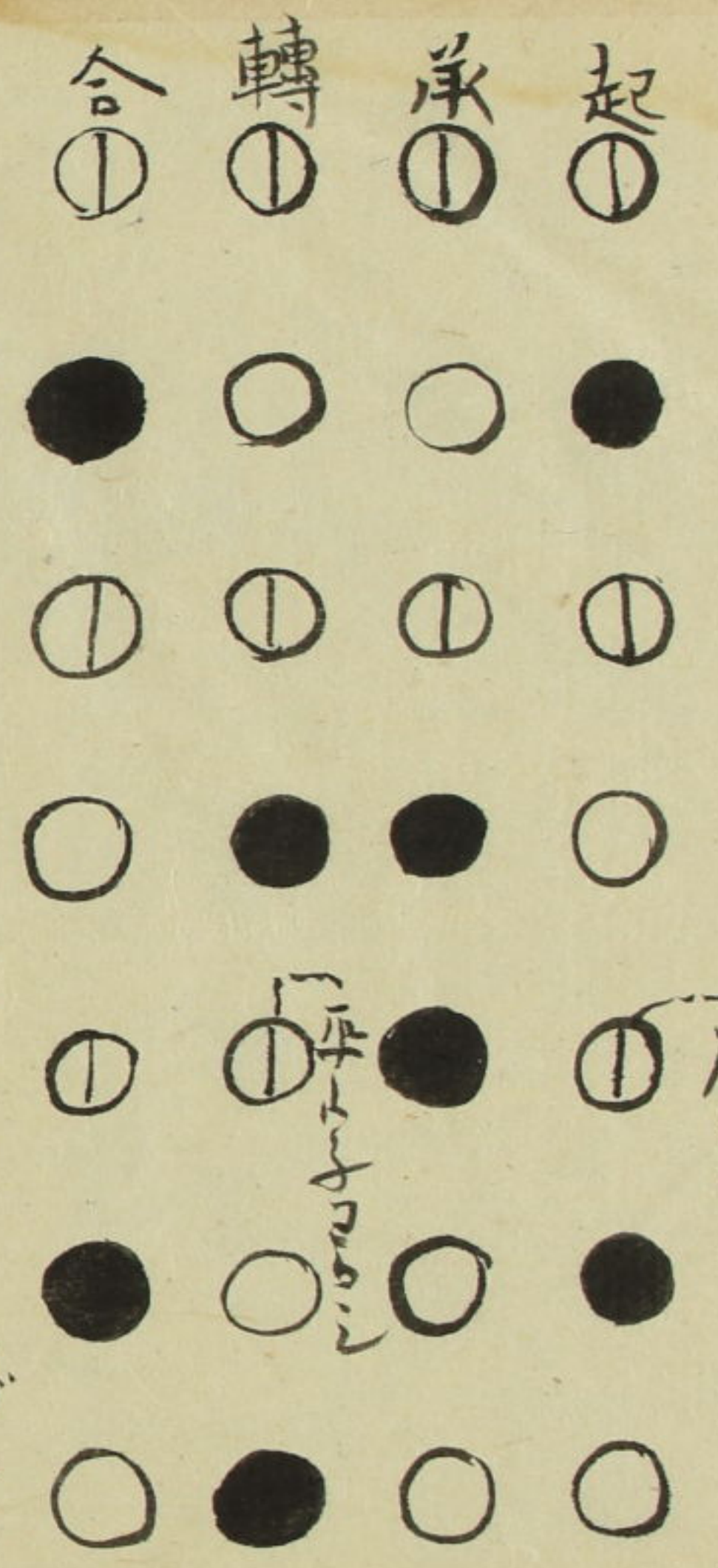
△ 同仄起



△ 七言絶句平起式



△同仄起式



七言絶句ハ上意ノ達シ情ヲ宣ルコト
 明ラカニ夕少ク意無窮言調諧和を
 シ佳ナリトセリ
 △七言拗體ヲ用ユルアリ 拗體ノ格
 ハ三ノ夕第二六ノ夕次夕ノ第二六ノ夕ト
 平仄相ヒ反スルヲ云ヘリ 喻ハ柳宗元
 カ柳州ノ二月ノ詩ニ

官情羈思共悽々
 春半如秋意轉迷
 山城過雨百花盡
 榕葉滿庭鶯亂啼

此類ナリ 城花ノ二字平半轉ノ
 二字仄ト相反スルナリ 此體必ス奇
 句ヲ得ル時ハ用ユル然ラザルハ失
 粘ノ識アリト云ヘリ
 ○律詩平仄差ガルトキハ失粘セズ一タ
 コ失粘スルトキハ拗體トスト云ヘリ
 ○又側體ヲ用ユル者アリ 其說拗
 體ト相類ス興ヲ發シ詩ヲ措トキハ
 奇健ナリ 長孫輔カ山家ノ詩ニ

獨訪山家歇還流
 茅屋斜連隔松葉
 主人聞語未開門
 繞籬野菜飛黃蝶

此類ナリ 流葉蝶ニテ側韻ニシテ
 句中第二六ノ字皆不粘ナリ
 ○絶句ト云ニ第二義アリ 四夕ノ
 中ニ不盡ノ意ヲ含ミテ妙絶ナル
 ト云ヒ意ナリ 二二日絶ハ截ナリ夕
 シ截ノ義ナリ 八夕ノ律詩ヲ截
 断スルニ前ノ四夕ヲ截取シハ後對
 ノ詩ナリ 後ノ四夕ハ前對ノ詩ナリ

中ノ四句ハ前後對ノ詩ナリ第一
ニト第七八トシ取レハ對セズト常
ニ作レ起承轉合ノ格ナリ餘ハ
起承轉合ノ格ニカサヒカカス

○ 挾聲格

是俗ニ云フ挾平ノ一ナリ七言平
起ノ詩第三句ノ末仄々ト三連
ニナル時第六字ヲ平字ニカヘタル
ナリ李白力詩ニ

娥。嶠。山。半。輪。秋。
影。入。平。差。江。水。流。
夜。發。清。漢。向。三。峽。
思。君。不。見。下。渝。州。

○ 和韻法

和韻ノ法三體アリ一曰依韻是
レハ其ノ一韻ノ中ノ字ヲトリ用テ
必ス其押字ヲ用ヒサルナリ二曰
次韻是レハ先ノ詩ノ原韻ヲ和メ先

後次第同ジヤウニスルナリ今ノ人多
クコレヲ用ユルナリ三曰用韻是ハ
先ノ押韻字ヲ用ヒテ先後ヲ
トリナカヒスルナリ結句ノ字ヲ
起句ニモ用ユル類ナリ○或人ノ曰
韻ヲ和スト云フ時ハ先ノ詩ノ意味
ヲウケテ換綴ヲ返答カク意味
アルニシトナリ次グトバカリ云フ時
ハ韻字ヲ用ユルニテ何ノ意得
モクラス或ハ某人ノ韻ヲ次テ答
惠某物ヲナドアル時ハ和同前ナリ
即興ナドノ和韻ハ次韻同前ナリ
和答和示和酬等意得アルニ
トナリ

○ 押題字法

坐客少キ時題ノ字ヲ探リテ押
ナリ譬ハハ三人ナレハ三山ノ題ヲ
出入剡溪藤ト云三字ヲ切リ探リ
テ紙ノ詩ヲ作り程伊川ノ三言
ヲ探リテ程子ノ題スル類ナリ如
題ニカハラフニ任トス或ハ花似雪
遠村雪雲外ノ鶴ナドノ類ハ化雪
鶴ナドノ字ヲ得ク時作意面白

カラヌメナリ然レドモ然レハ題ニ
カ、ラ、メ、ナ、リ、希、ハ、物、ナ、レ、バ、題、ニ、カ、ル、
字、ナ、リ、ト、モ、凡、流、ナ、レ、題、ヲ、選、ニ、出、ス、
メ、シ、尤、モ、結、句、ニ、押、ム、ナ、レ、ト、ナ、リ

○取和歌末字法

或ハ歌ヲ寄セウレシテ其歌ヲ和シ又
ハ席上ニ歌人ノ會交ニ和歌ヲ和ス
ル時ハ其歌ノ末字ヲ取テ結句ニ
押テ作ルナリ大由各哥ノ意ニウ
ケテ作ルメシ其興ニヨリテ別意
ヲ以テ作ルモアルメシ末字ハ字ナ
ラハ仄韻ニテ作ルメシテニハ。ハ字
ヲハ捨テ用ヒズ

○分韻探字法

詩席ノ作者四人アリハ江淮河漢ノ
四瀆又ハ麟鳳龜龍ノ四靈五等ヲ撰
ニ出スヘシ分韻ハ通り題但シ題カ
難題ナレハ心ヤスキ字ヲ切題カ容
易ナレハ作り難キ字ヲ押ムヘシ五合
リ百人ニ到ル例ナリ古キ語ヲモ分
詩ノ句ヲモ分ツヘシ探リ得ル字ヲハ一
句ニモ押トモ結句ニ押テ佳ナリトス仄
句ニハ仄韻ヲ用ヒテ作ルメシ

○定韻礎法

詩席ニテ何ノ字ヲ押ヘキト極メテ
作ルヲ韻礎ヲ定ムルト云ヘリ絶句ハ
結句ニ押ナリハ句ハ偶對ノ内ニモフ
トモ韻礎トアルカラハ結句ニ押ヘシ分
ナレハハ句ハ多分何レノ句ニナリトモ押
ナリ然ト體ノアル字ヲ撰ミ出スヘ
シ禽獸器財十干十二支十方角等ノ
字ナリ題ト不相應ナル字ヲ好トス或ハ
竹外ノ鶴ト云題ニ天ノ星ノト云字ハ
作リヤスキ程ニ牛カ熊カ囊カ弓カ
ノ取アルハ物ヲ出スヘシ其中至ツテ
難字ハ遠慮アルヘシ仄字ヲ用ユバ
ラス或ハ坐客五人ニ五味ノ字ヲ定
メ四人ニ方角用ノ字ヲ定ムルハ分
韻礎ニアラズ韻礎ト云ハ幾人ニモアル
韻ノ字ニ極メテ人々ノ作意ヲ
見テ興トセリ

○和哥題

和哥ノ題ヲ用ユルハ詩歌合せ或ハ坐
席ニ哥人ノ連ナレハ節アルナリ詩ニ
作ルベキ哥ノ題ヲ選ニ出スナリ漢
題ニ別ニ替ル作りヤウハナレトイヘシ少ノ

ス也譬ハハサ化ノ夕題ニ花塢夕陽
遲弄花香滿衣日高花影重或
ハ月ノ約題ニ簾疎月到床爲月
從牕破江清月近又等ノ凡雅ナ
ル夕用エシ六言七言モ同意ニ
六七言ハ大畧を通り題ナリ各題ニ
ハ布有

○二字題

二字題モ分韻ニスルヲ多シ或ハ待花
問鶯惜月又ハ午睡朝起苦寒
等ノ二字題ハ一作アルバ品節ナク
トモ賦スヘシ凡ソ題ノ字ヲ出スル禁
止ノ例ハナケレバ用捨シテサレバ此興
トナレ題ノ字ニ働キアレバ用得テ拙
ナカレズ何ノ模様モナケレバ死字トナ
ル其活字トナレノ処ヨク分別スベシ

○一字題

凡ソ一字題ハ會席ニハ希ニアルヲナリ多ク
ハ獨吟タルニ雨露霜雪花木竹草ノ景物
ヨリ會獸器財ニ至リテ題トセリ李嶠
カ百二十首ノ題詠ナド見ルニ會席ニ
トナリスルトキハ韻ヲ分ケニスルカ又韻礎
ヲ定テ作ルナリ或ハ連衆ノカズヲ考ヘテ

五色五行四靈無六氣ノ文字ヲ探リ
テ作ルモアルニ一時ノ題ノ時ハ題ノ字
ヲ詩中ニ顯ハサズト云説アルニ中華
ニ其ノ沙汰ナレ作例モ多シ日本五岳
ノ僧ナド顯サヌヲ所要ト作リテ詩多
シ必ズレモ用ヒサレ

○著題法

凡ソ題ヲ定テ作ル著題ノ體ト
セリ中華ニ應制賜宴科舉ナドニハ
必ズ題アリ其外ハ即興贈答ノミ多シ
唐宋以來詠物ト云フハ皆著題ナリ元
明ニ至リテ盛ニ行ハレシナリ日本ニテハ
著題ノ詩ノミ多シ詩席ニ臨ムニ先ツ師
範ニ請テ時節境地風景相應ノ
題ヲ定ムベシ題カ新奇ナレハ詩々モ必
佳題アルナリ

○閨情

是日本ノ戀ノ題ナリ中華ニ戀ノ題
ト云フハナシ多クハ官女ナドノ寵ヲト
ヘテ閨門ノ中ニ日ヲ送ルサニ云ヘリ
或ハ春閨閨怨春女怨ナドトモ云ヘリ
或ハ孀婦ノ情ヲ云ヘ又ハ夫他國へ行キ
又ハ邊塞ノ成ニ行シ婦ノ意ニカワリテ

述作スルコトナリ情ヲ深ク作り出ス
ヲ專トス景氣ノ外ニ不盡ノ意ヲ
含ムヲ佳ナリトス樂ノトモ淫セス怨ノ
譏ニ到ラテ境致ナリ杜荀鶴が
凡暖鳥声碎日高花影重ト作
類ナリ春日景ノ寫ス中ニ不言ノ怨
情限リテ或ハ權徳輿カ落花人
獨立微雨燕雙飛ト作ヒサヨク
熟讀玩味スベシ悼亡ノ詩ナドモ其人
ノ心ヲ察シ哀傷ノ情ヲノブルヲ佳ク
トス禪林僧ノ詩ナド多クハ悟道ノ語
ナドヲ用テ作シハ穩カナラズ總テ凡
景ノ寫ス詩ニモ今來禪家ノ詩ハ
語祿ノ文字ヲ用テテ翻牙カハ
一ツノ病ナリ僧詩貴無香火氣ト
古人モ評セリ

○幽野體

是江村田家ノ景氣ヲ幽ナラシメ寫シ出
スヲ專トス其作意ニ因テ同ジキ景ノ幽
ニモナリ野ニモナルナリ杜南カ一徑野花
落孤村春水生ト作り祖詠カ簷前蒼
覆地竹外鳥窺入ト作シル類言外自然ニ
幽野ノ體ヲ含ミテ妙境ニ至ルモノナリ

○閑適

閑中見ルトコロノ景趣ノ我心ニ適シテハ
何レノ詩ヲ作ルモ皆景趣ヲ寫スルナリ
適トアルカラハ尤モ佳趣ナラズ本意ヲ
失フナリ湖声蓮葉雨野色稻花凡
ト張藉ヲ作り竹引推琴入花數載
酒過ト孟浩然カ作ル類閑適ノ本意ヲ
ルメシ是レ詩人ノ粉骨ナリ實ニ心ヲ寄
スベシ

○用字

詩中ニ古又古語ヲ用テラシムリ古人モ
コレヲ難義ノ又ニセリ漢人ハ法度正シク
用テ又ノ嚴密ニセリ宋朝ニ多ク用テ又
用ヒタリ初字ノ者ハ古又ヲ出サズトモ
只心境ノ凡味ヲ隨分ニ移シ出スベキナ
ナリ用テ又ハ字間ノ華英ナレ故ニ疎字
ニテハ題ニ的當ノ故又用ヒガクキモノ
ナリ

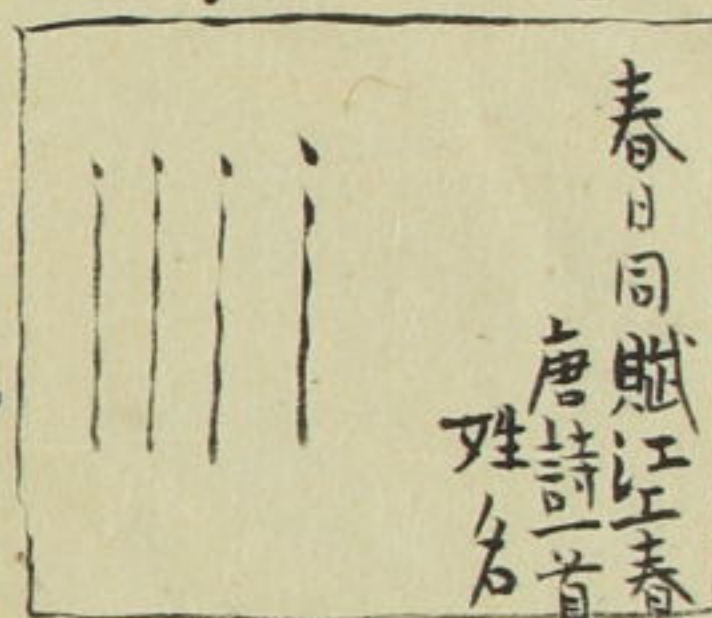
○辨六義

六義ハ凡雅頌賦比興ナリ先ツ賦比興
ノ三ヲ辨ヘ知レシ凡雅頌ハ詩ノ體ナリ

是レ和哥ノ法ニ准スルノ例ナリ 詩哥合世ノ時ナドハ必ス此法ヲ用ユル

法又

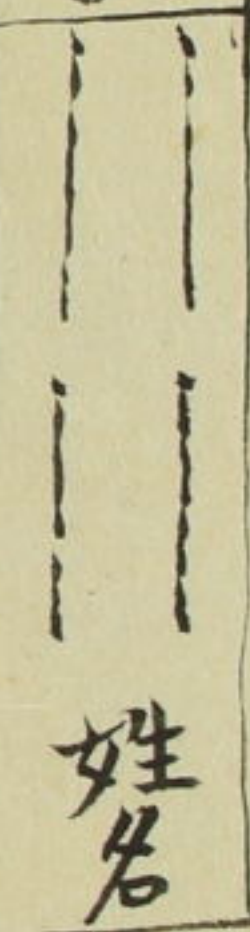
春日同賦江春望
唐詩一首
姓名



懷紙ハ小鷹タレ

上紙

江春望 仲春何日
某亭之會



是ヨリ下ハ又壹枚

通題書短冊法

姓ハ源平藤橘ノ類ナリ

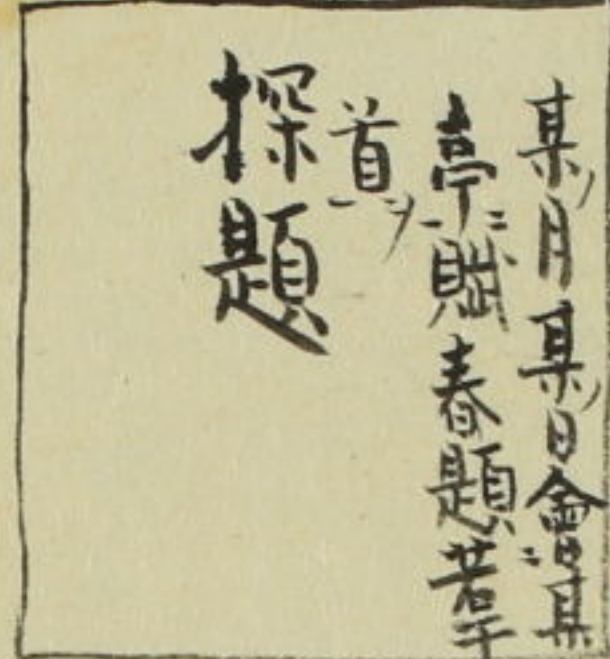
男各義ニ氏ヲ書モリ之氏

ハ名字ノ古又ナリ

探題書法

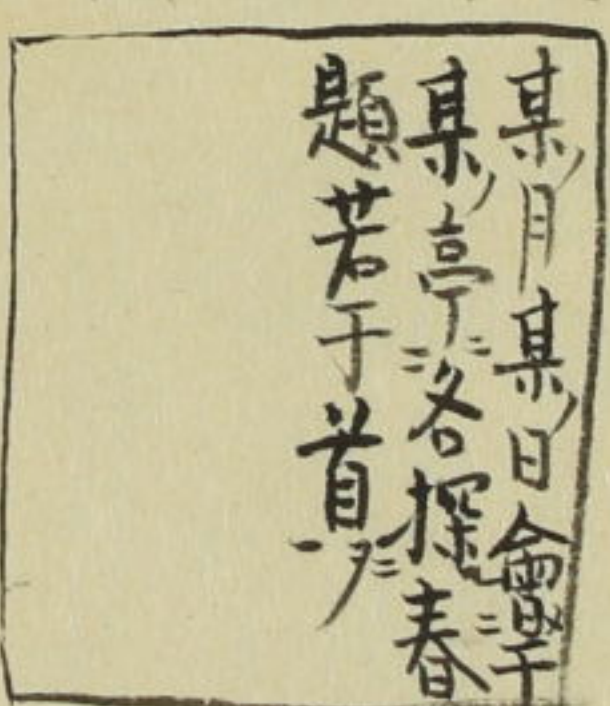
上紙常例式

某月某日會于某
亭賦春題若干首
探題



懷紙常例式

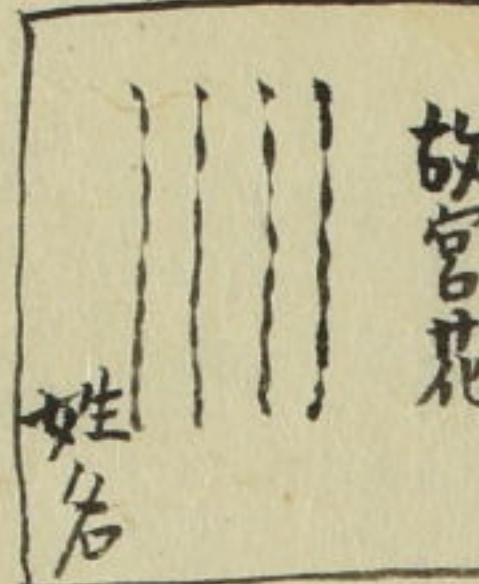
某月某日會于某
亭各探春
題若干首



探題懷紙式

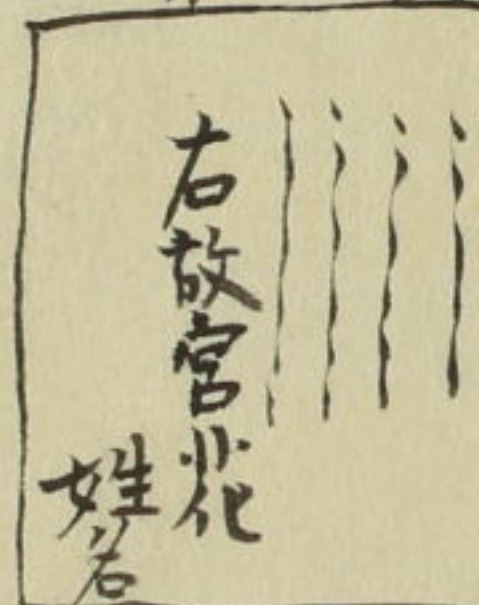
常例

故宮花
姓名



懷紙例

右故宮花
姓名



探題短尺書法

上紙

探題 某月某日會于某
亭各賦春題若干首

各紙

故宮花
姓名

分字書法

上紙式

各探星隨平野行
月原大江流十字
為韻
故宮花

懷紙式

探得何字
姓名

題

始ノ二年月會所ノ終ニ書モリ
分ノ子短尺書法

上紙

某月某日會所
故宮花以皇隨平野行月原
大江流十字各為韻

各紙

得何字
姓名

定韻礎書法

紙上
故宮花
各以何字
為韻礎

題ノ中ニ書始ニ韻礎ノ謂
レヲ書モ可シ

短尺ニ書スル時ハ左ノ如シ

紙上
故宮花
各以何字
為韻礎

各紙短尺懷紙
トモニ通題ノ
式法ニ同シ

即興題書法

詳式

春日游某亭
聊賦即興
姓名

略式

某亭即古又
姓名

即興書短尺法

詳式 五字ノ時ハ左ノ如シ某亭之ノ文字ヲ
入六字ヲ三行ニ書モ可ナリ

某亭
即興
姓名

某亭
即興
姓名

自作可書法

常例

月前偶成
姓名

愛式

月前偶成
姓名

色紙ニ
書モ此
意得
ナリ

同八夕書法

常式

月下偶成
姓名
色紙モ同意ニ

愛式

月下偶成
姓名

七行書合セ終リ
ノ下ニ姓名ヲカク

同呈貴人會守書式

俚語一章上呈
某先生閣下謹讀
電驪 伏冀
邱斧 幸甚
姓名九拜

謹誦詩一紙呈
某先生床下聊讀
高臨見

姓名 頤首

姓名 頤首

同呈平交書式

野詩一章呈
某英生几下
一察 維幸
姓名

和尊貴詩書式

謹奉和
某先生
尊願
姓名再拜

~~右一絕謹贈
姓名~~

右一絕謹贈
某英方 枕前
姓名

奉和
某先生尊願
謹讀 嚴聽
姓名頓首

和平交詩書式

和
某賢丈
姓名

右和
某雅和
詩韻
姓名

絶句

八句

三分上二ツ三題ツカクニ
題
姓名

題
姓名

トシツクナ
下ツニ時ハ姓
名ヲ兩カヘ
ハツニツモ
カクニ

△聯句之法

○唱句式

發端ノ唱句ハ四季ヲ追テ月花ノ目前ノ美景ヲ珍ク作り立ルヲ本トス對句モコレニ同シ異義ニハ季ナクテモ昔カラズ指句ナドニハ雜クスルノ多ク指句トハ客人ノ挨拶ノ句ナリ句中ニ挨拶ノアリイヲ云フナリ總シテ唱句ハ新シキ作意ヲ本トス古作ニ似ルハ惡シ五字ノ中一字モアダニナキ様ニスルハ是ノ四季組トナリ好句トセリ又對句ハ先人ノシタル句トモ唱句サヘ付タラハ憚カラス付ベキナリ對句ハ古キノ專トセリ

○發端ノ唱句季ヲ以テ付ケニクキ時ハ茶對香對隱者對トテ此ニツノ内ニテアリイ付ルナリ元來ハ發端ノ同季ニテ付ルヲ好シトセリ季ヲカヘテスルハ宜シカラス

○獨句ノ唱句平起ノ格

○●●●●●●●●●●●●對句

同仄起

○●●●●●●●●●●●●對句

○二四不同下三連ヲ嫌フ一詩ニ同シセ言

ノ時ハ二六對ナリ四言六言皆同シ意得ナリ四仄平ノ句ハ忌ミ避クナリ仄起ノ唱句ニ有夏ナリタトヘバ●●●●●●如武ナルニヘリ若シスグレテ秀逸ノ句又ハ古夏古語ヲヨク用ヒテホセタル句ナラハ免スナリ四平一仄ヲ嫌フ一同上

○脚句對

脚句ハ多クハ上ノ句ニテ言カケテ下ノ句ニテ言ヒホドクナリ是レ上ニ體ヲ云テ下ニ用フ云テ下ニ體ヲ云フ一モアリ又詩ノ興ノ如ク上ノ句ニ興ヲ起シテ下ノ句ニテ何ニテモ云ヒ出シタルモアリ

平起

○●●●●●●●●●●●●唱句
 ○●●●●●●●●●●●●對句
 仄起
 ○●●●●●●●●●●●●唱句
 ○●●●●●●●●●●●●對句

△古人唱句ニ

興勝庾樓月 故人亦速來 是レ上ニ體ヲ云テ下ニ用フ云タルナリ 右對句ニ情多ク平岫雨 殘夢只愁同 又古人ノ句ニ 桮野謔詩客 藏春八月梅 是レ上ニ用フ云テ下ニ體ヲ云タルナリ

金幾楊沙銀朱提筆兒穎墨龍齋硯
 文也紙五版書審籍畫丹青手硯
 牙籤卷冊藥玉籍劍龍泉簪玳瑁珠
 扇齊純拂玉塵藤簞湘水蓆
 新草檀檀檀烟枕珊瑚盞珀血筋
 玉插御覆燭玉膏手雲羅汗力緒
 幾幾瓿壹鋪壹燭幾對帕汗力緒
 壹壹鞋革履緞鞋雲履蒲鞋蒲履
 襪足緞足緞足絹足帶粗條數
 衣體服

寬政八年丙辰冬臘月穀旦

法海寺現住
 智道寺榮致寫之

